

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター 2004年度事業報告書 目次

| | | | |
|-------------------------------------|----|---|----|
| <u>2004年度の事業の評価</u> | 2 | 4. 情報サポート | 30 |
| <u>I .センターの運営に関する事項</u> | 6 | (1) NPO情報ライブラリー | |
| 1. 通常総会の開催 | | (2) 情報の収集 | |
| 2. 理事会の開催 | | (3) 情報の発信 | |
| 3. 評議員会の開催 | | (4) 書籍販売「みんなん堂」 | |
| 4. 会員について | | (5) 各種取材への協力 | |
| 5. 事務局について | | 5. 調査・研究・コンサルティング事業 | |
| 6. 職員・ボランティアスタッフについて | | (行政・企業向け講師派遣・相談・委託) | 33 |
| <u>II .センターの事業に関する事項</u> | 14 | (1) 地域貢献活動相談センター | |
| 1. 政策提言(アドボカシー)活動 | 14 | (2) みやぎ青年育成推進事業・みやぎ地球市民すくすく計画 2004 への講師派遣 | |
| (1) NPO税・法人制度改正関連 | | (3) まち美化に関する市民活動推進のための支援事業 | |
| (2) 地域のNPO施策に対する提言 | | (4) クリーン推進仙台員平成 16 年度グループ学習会運営業務 | |
| (3) みやぎのNPOの政策提言力をつける連続講座の開催 | | (5) 平成 16 年度杜々かんきょうレスキュー事業 | |
| (4) 行政等による各種委員会、審議会等への委員委嘱協力 | | (6) 「仙台市すこやか子育てプラン第3期行動計画」策定にかかる市民活動団体ヒアリング調査 | |
| 2. マネジメントサポート | | (7) 市民トラストの森「市民参加の森づくり」企画運営 | |
| (相談・講座・NPO向け講師派遣) | 19 | (8) 市民による百年の杜づくり講座企画・実施 | |
| (1) コミュニティビジネス開発講座の企画・実施 | | (9) 平成 16 年度起業家育成・支援事業(アクティブシニア・ビジネス部門) | |
| (2) NPOマネジメント実践講座 2004 | | (10) 宮城県内のNPOへの助成金提供の実態調査 | |
| (3) NPOブラッシュアップセミナーの企画協力・講師派遣 初年度事業 | | (11) 自治体職員向け研修・講師派遣 | |
| (4) 地球環境市民大学校研修業務 | | 6. 特別事業 | 44 |
| (5) NPO経営相談 | | (1) サポート資源提供システムの運用 | |
| (6) NPO・市民活動団体向け研修・企業向け内部研修・講師派遣 | | (2) 仙台市市民活動サポートセンターの管理・運営 | |
| 3. ネットワーキングサポート | 29 | (3) せんだいCARES 2004の実施 | |
| (1) センダードサロンの主催・企画・開催 | | 2004年度 収支報告 | |
| (2) 各地NPO推進機関との連携 | | こちらのページをご覧ください。 | |

http://www.minmin.org/Whats_se_mi/yosankessan.htm

資料編(略)

2004年度 事業評価

2004年9月の総会に提出した「2004年度に向けた総会のための覚書」に基づいた評価をまとめた。事業報告書の要点整理としてご覧いただきたい。

1. 社会環境と私たちのミッションについての評価

NPO法人数はますます増加しており、2005年5月末で21,996団体を数えている。前年度に予測したのは、以下の4点であった。

- 1) NPO法人制度の悪用
- 2) 行政に依存する体質
- 3) NPOと企業との競合
- 4) マネジメント力不足が顕在化

1)は予想以上にNPOへの逆風として働いており、ますます信用創造がNPOの課題となってきている。2)だが、1)の逆風のせいで所轄庁の干渉が増えてきており、なかには不当な指導も散見される。公益法人改革の波とともに、このままではNPO制定の趣旨が後退してしまうことも十分に考えられ、適切なアドボカシーが必要である。3)は、1)とも連動しているが、企業まがいのNPOが増えていることで、不信感を増長させていることは否めない。NPOらしいNPOの成長がもっと求められている。そのためにもNPOの経営力、提案力の強化は喫緊の課題であり、これは今後もしばらくは変わらないであろう。

センターとしてはミッションに則り

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1) 経営資源の調達支援・・・・・・・・ | } 支援活動 |
| 2) 人材育成支援(マネジメント支援)・・ | |
| 3) 組織連携・協働支援・・・・・・・・ | |

4) 市民活動促進基盤の整備・・・・基盤整備・アドボカシー活動の4つの柱をそれぞれ太くする作業を続けてきた。以下、それぞれの領域で新しい進展があったものを中心に報告する。

2．東北・宮城における状況の変化と私たちの対応についての評価

県内のNPO法人数は、2004年6月の250団体余から1年で350団体を数えている。1年間で100団体近い増加はこれまでになかったことで、社会的関心の高まりを示している。これは同時に、私たちの存在が認知されないという相対的に私たちの役割の低下が起きる可能性を示している。もちろんすべてのNPOが支援を必要としているわけではない。すべての団体に当センターの機能や役割が認知される必要はないが、一方、NPOセクターの力量やコンプライアンス等の資質の向上に寄与するためには、認知度を上げていく必要があると考える。

2005年4月から、NPO法人杜の伝言板ゆるるが、みやぎNPOプラザの指定管理者となり、県内各地の支援センター・施設等との連携を強化するようになった。当センターとしても、2005年6月よりみやぎNPOプラザの運営評議員となり、協力して県内のネットワークの強化に力を尽くしている。

東北各地とのネットワークということでは、地球環境基金の委託事業で「NPOマネジメント講座」と「協働コーディネーター養成講座」を、東北全域を対象に開催したことにより、環境系NPOとの接点が増加した。

3．収入構造変革評価

「受託事業や講師派遣で稼ぎ、中核的ミッション事業に投資する」という事業構造から、「多様な関係者が中核的ミッション事業を支える構造へ」と転換することを目標に努力をしてきたが、まだ完全には実現に至っていない。しかし、その兆しは大いに出てきているというべきで、2005年度のチャレンジに、その成果がかかっているところである。

市民社会創造ファンドよりの二人のインターンは、それぞれ「せんだいCARES」事務局業務および「宮城県内のNPOへの助成金提供の実績調査」に大きな成果をもたらしてくれた。

4 . 重点事業評価

1) サポート資源提供システムとみんなファンド

物品（4社より296点・30団体へ提供）は順調な推移を見せた。中古パソコン（15台・15団体へ提供）については提供台数の不足から新聞に取り上げられ、認知度の向上に貢献した。資金（5プログラム・895万円・45団体へ助成）については、宮城県のみやぎNPO夢ファンドが順調に提供される状態になって、年間1,000万円提供という目標が視野に入ってきた1年だった。しかし、公募による提供先の固定化が進んでおり、新規応募者の開拓が必要だが、宮城県全体での助成金需要の限界と団体側の事業企画立案能力やマネジメント能力の限界を越える対策を考える時期であることが見えてきた。（詳細は45～62ページを参照）

* 運用実績は、2004年7月～2005年6月末現在

2) せんだいCARES

第2回のせんだいCARESは、参加NPO42団体、40,553名の参加者、128企業・団体からの協賛・協力をいただき盛況に終わったが、テーマや運営面等で新たな課題が見えてきた。なかでも、当センターが中心になり開催するキャンペーンから、企業関係者、NPO関係者による実行委員会方式を強化し、多様な主体が担う仙台の名物キャンペーンに成長させることが必要であると考えた。2005年はすでにその方向で実行委員会が活発に動き出している。（詳細は68～70ページを参照）

3) マネジメント講座関連事業の強化についての評価

宮城県のマネジメント講座を実施することができ、仙台市以外の地域での一定の成果があった。あわせて地球環境基金の二つの講座、仙台市産業振興事業団のコミュニティビジネス開発講座、仙台市市民活動サポートセンターの人材育成講座や起業講座など、多数の講座の実施をすることができた。今後は、個別相談体制の強化やコンサルティングのニーズに対する対応が検討課題である。

4) 仙台市市民活動サポートセンターについての評価

指定管理者制度の1年目は、様々な契約上の手続きを無事乗り越え、人材の確保についても成果のあった1年と言える。なかでも、「骨プロ」による8施設へのチラシ配布システムの提案と実施は、当センターの提案が評価され、的確に仙台市の公共施設の質的向上に役に立っていることを示すものである。さらには、仙台市の職員用の「協働の手引き書」の策定に参加し、6月からは、「協働相談所」を仙台市との協働事業で開催している。書籍販売も検討を終え、8月から実施の運びとなった。

また、施設の老朽化に起因する問題が多発していたが、市の市民公益活動促進委員会でも取り上げられ、移転の方向で検討が進んでおり、今後その準備に向けた取組みが必要になる。そこで指定管理者としての経験を活かし、ますます公共施設管理・運営の革新モデルを目指して努力していきたい。

(詳細は 63～68 ページを参照)

5) アドボカシー評価

公益法人改革やNPO支援税制等、NPOに関わる国の制度については、2004年度も取り組んだ。地域のNPOや市民に共通する自治体の政策について、関係するNPOと共にワーキンググループをつくり政策提案に取り組んでいく手法を開発する方向で連続講座「NPOが社会を変えられない5つの理由」を開催し、冊子にまとめた。次のステップへの第一歩になった。

(詳細は 14～18 ページを参照)

I . センターの運営に関する事項

1 . 通常総会の開催

(1) 第 6 回通常総会

日 時：2004 年 9 月 4 日 (土) 13 : 15 ~ 15 : 45

会 場：ネ！ットU 仙台市情報・産業プラザ
5 階セミナールーム (2) B

議 事：第 1 号議案 2003 年度の事業報告および決算の承認
第 2 号議案 2004 年度の事業計画および予算の審議・決定
第 3 号議案 理事・監事の選任

出席者数：正会員 出席 25 名、委任状提出 60 名、合計 85 名 (正会員 119 名中)



(2) 記念セミナー

日 時：2004 年 9 月 4 日 (土) 16 : 00 ~ 17 : 30

会 場：ネ！ットU 仙台市情報・産業プラザ 5 階 セミナールーム (2) B

参加費：会員無料、非会員 500 円 (「ビッグイシュー日本版」見本誌配布有)

内 容：仙台には 200 人を越す路上生活者 (ホームレス) がいる。全国では 25,000 人以上 (平成 15 年初頭の厚生労働省調査、シェルター収容者を含まず)、大阪では 1 万人以上、それに対してロンドンでは 400 人程度である。これが年間 3 万人を越す自殺者を出しつづける国の現実。仙台でもここ数年、いくつもの NPO がこの問題に積極的に取り組んでできる。その中で、ホームレスだけが販売できる雑誌を発行し、ホームレスの仕事を作るという方法がイギリスで始まった。2003 年 9 月には日本でも創刊し 1 年間で、月に 7 万部を売る月刊誌とホームレスによる販売網をつくりあげ、2004 年 9 月からは、隔週刊化するという。このような社会的課題にビジネス手法を取り入れて解決を図る企業 (社会的企業 / ソーシャルエンタープライズ) が増えている。新しいビジネス像を生み出している、有限会社ビッグイシュー日本の創業者、佐野章二さんを招いて、社会的企業の潮流についてお話をうかがった。

ビッグイシューとは？

『ビッグイシュー日本版』成立へのハードル

ビッグイシューと社会

ビッグイシュー、今後の課題

ゲ ス ト：有限会社ビッグイシュー日本 佐野 章二氏

出席者数：49 名



ビッグイシューの T シャツに身をつつみ、立ち上げの頃を語る佐野さん。
2004.9.4

2. 理事会の開催

2004年7月～2005年6月：13回開催。特に記載のない回の会場は、せんだい・みやぎNPOセンター。

第61回理事会

日時：2004年7月20日（木）19：00～21：30

- ・2004年度事業報告・決算報告について
- ・2005年度事業計画・予算について
- ・次期理事、次期評議員について
- ・入会者承認
- ・その他

第62回理事会

日時：2004年8月19日（木）18：45～22：10

- ・2005年度事業計画・予算について
- ・監事候補について
- ・第6回通常総会について
- ・入会者承認

第63回理事会

日時：2004年9月4日（土）11：00～12：30

会場：情報・産業プラザ セミナールーム2（B）

- ・第6回通常総会議案について
- ・会員名簿の確定
- ・評議員会について

第64回理事会

日時：2004年9月26日（日）9：00～16：00

会場：遠刈田温泉 パーデン壮鳳 会議室

- ・評議員について
- ・宮城県民間非営利活動促進基本計画の改定アイデアについて
- ・10周年に向けた当センターの中期戦略について

第65回理事会

日時：2004年10月20日（木）19：40～21：00

- ・中期戦略について ～理事合宿をふまえて～
- ・入会者承認

第66回理事会

日時：2004年11月19日（金）18：45～21：00

- ・中期戦略の確認
- ・みやぎNPOプラザの指定管理者応募について
- ・入会者承認

第67回理事会

日時：2004年12月20日（月）19：00～20：30

- ・中期戦略の担当事業などについて
- ・入会者承認

第68回理事会

日時：2005年1月20日（月）19：00～20：30

- ・人事について
- ・半期の仮決算と今後の見通し
- ・年間予定について
- ・ローカルマニフェストについて
- ・入会者承認
- ・その他

第69回理事会

日時：2005年2月21日（月）19：00～21：00

- ・ローカルマニフェスト運動について
- ・入会者承認
- ・その他

第70回理事会

日時：2005年3月22日（火）18：53～21：32

- ・人事、給与関連について

- ・募金寄付先について
- ・その他

第71回理事会

日時：2005年4月20日（水）19：00～21：00

- ・2005年の方向性について
- ・入会者承認

第72回理事会

日時：2005年5月20日（金）19：20～21：08

- ・決算の見直しについて
- ・2005年度の方向性について
- ・入会者承認

第73回理事会

日時：6月21日（水）18：30～20：15

- ・決算見直し
- ・サポート資源提供システム 2004年度報告
- ・せんだいCARE S実行委員会について
- ・定款変更について
- ・仙台市への市民活動サポートセンター事務局用PC環境整備に関する要望書について
- ・入会者承認



理事会のひとコマ
2004.9.26

3. 評議員会の開催

2004年7月～2005年6月：2回開催。会場は、いずれも市民活動サポートセンター3階セミナーホール。第9回では意見交換のスタイルを変え、理事のファシリテーションのもと、評議員のみなさんからご意見や話題提供をいただいた。グループ毎の少人数の方が発言の機会が増すので、より具体的で中身の濃い議論ができた。通年2回程度開催しているので、いずれか1回は、今回試行したスタイルを定着させていきたい。

第8回評議員会

日時：2004年10月5日（火） 18：30～20：30

内容：2003年度事業報告及び収支決算について
2004年度事業計画及び収支予算について
意見交換

参加者：16名、理事5名、事務局7名

第9回評議員会

日時：2005年4月26日（火） 18：00～20：00

内容：2004年10月～2005年3月の事業報告
意見交換

参加者：14名、理事4名、事務局4名

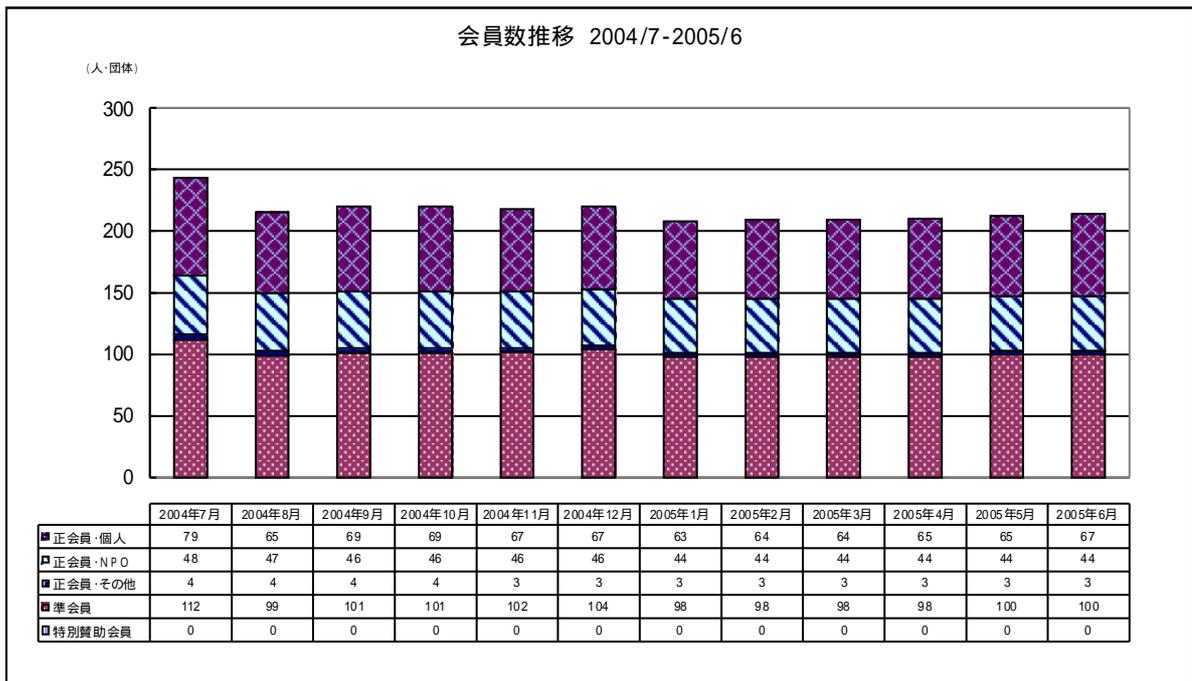


少人数にわかれての意見交換の様子
2005.4.26

4 . 会員について

2004 年 7 月期 会員数 243 個人・団体 / 2005 年 6 月期 会員数 214 個人・団体

新規入会としては、正会員 6 (個人 1、N P O 5)、準会員 10。種別変更は個人会員から団体へ切り替えが 3 団体あった。正会員の企業等が伸び悩んではいるが、サポート資源提供システムへの協賛・提携企業としてプログラムを通じた関係構築が継続している。また、当センターの会員のうち、「N P O 情報ライブラリー」への登録団体は 31 団体であった。(2005.6 月末現在) ちなみに、これは登録団体数の 25% にあたる。



ウキウキ入会・継続キャンペーンの実施

2004 年 7 月から 8 月末の期間内に 2004 年度会費をお支払いいただいた会員の方を対象にキャンペーンを行い、抽選の結果、下記の当選者に決定した。



電動ハイブリッド自転車 限定 1 台

当選者：滝澤陽子様

* 自転車は理想科学工業様よりのご提供



、ノートブックパソコン (O S 付き、中古) 限定 7 台

当選者：松山風土研究会様、(特活) あかねグループ様

(特活) あぐりネット 21 様、(特活) 麦の会、キャブネット・みやぎ、(特活) ハーモニーハウス様、(特活) まちづくり政策フォーラム様

* パソコン本体は、(株) N T T ドコモ東北様よりのご提供

5. 事務局について

毎月の定例会議によって、業務に関する情報共有とより効果的な事業遂行を図ってきた。2005年4月よりスタッフの担当替えや勤務体制の変更を鑑み、会議の見直しを図った。また、2005年4月1日の「個人情報の保護に関する法律」施行に備えて、センターの業務にて取り扱う個人情報の管理方法について、ガイドラインの策定を行った。

(1) 事業・運営会議の開催と大町全体ミーティングへの改編

2004年7月～2005年3月：16回開催（隔週）

2005年4～6月：3回開催（月1回）

事業企画、組織運営に関する業務について進捗状況の報告や事業遂行のための審議・検討。

参加者：常務理事、事務局長、大町事務局勤務スタッフ、

仙台市市民活動サポートセンター勤務スタッフ1名

| | | | | |
|------------|------------|------------|-----------|------------|
| 第86回：7/6 | 第87回：7/26 | 第88回：8/17 | 第89回：8/31 | 第90回：9/14 |
| 第91回：9/28 | 第92回：10/12 | 第93回：10/28 | 第94回：11/8 | 第95回：11/29 |
| 第96回：12/14 | 第97回：1/6 | 第98回：1/17 | 第99回：2/24 | 第100回：3/10 |
| 第101回：3/28 | | | | |

<大町全体ミーティング>

| | | |
|----------|----------|---------|
| 第1回：4/11 | 第2回：5/11 | 第3回：6/8 |
|----------|----------|---------|

(2) 事業企画戦略会議の開催と経営会議の改編

2004年7月～2005年6月：14回開催

事業企画の検討・決定。（毎月第3木曜日、他）

参加者：常務理事、事務局長、事務局次長、

仙台市市民活動サポートセンターセンター長、副センター長（2005.2～）

| | | | | |
|------------|-----------|-----------|------------|------------|
| 第34回：7/8 | 第35回：8/19 | 第36回：9/9 | 第37回：10/14 | 第38回：11/19 |
| 第39回：12/16 | 第40回：1/6 | 第41回：1/20 | 第42回：2/21 | 第43回：3/17 |

<経営会議>

| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 第1回：4/15 | 第2回：4/26 | 第3回：5/19 | 第4回：6/20 |
|----------|----------|----------|----------|

(3) センター会議の開催

2004年7月～2005年6月：12回開催

組織全体（戦略）の情報共有。スタッフの研修・スキルアップの場。

唯一のスタッフ全員参加会議。（毎月第4水曜日）

参加者：常務理事、事務局長、全スタッフ

7/28：センター会議について、入会キャンペーンについて、共済について、宮城県への申入れ

と古川の件について、せんだいCARE S 2004、相談対応について、サポートセンター
人材育成事業のネーミングについて

- 8/25：新スタッフの紹介、総会について、せんだいCARE S 2004、退職スタッフからのメッ
セージ
- 9/29：総会報告、当センターの今後のビジョンについて、せんだいCARE S 2004 進捗状況
- 10/27：アドボカシー研究会進捗状況、オープニング直前！せんだいCARE S 2004 進捗状況、
退職スタッフからのメッセージ、理事より
- 11/24：せんだいCARE S 2004 報告、インターシップ中間報告、理事より、その他
- 12/22：非常勤職員応募状況報告、せんだいCARE S 2004 報告、市民活動カラフルフェスタ
企画紹介、センダードブレスト、理事より
- 1/26：新スタッフ紹介、共済について、市民の提案力向上セミナー前半の報告、理事より
- 2/23：市民の提案力向上セミナー後半の報告、仙台市個人情報セキュリティ研修会報告、市民
活動カラフルフェスタふりかえり、当センターの支援対象について Part I、2005年度市
民活動サポートセンター事業計画、スタッフ募集について、理事より
- 3/30：センター会議の位置づけについて、当センターの支援対象について Part I I、退職スタ

ッ

フからのメッセージ、理事より

- 4/27：当センターの事業について、サポートセンターの全体方針について、「ばれっと」の編集
方針確認と今年度の紙面づくりに向けた検討、現在進行形&オススメ情報、理事より
- 5/25：センダードブレスト、理事より
- 6/29：スタッフ・インターン近況報告、研修報告、当センターの今年度事業について、NPO
/NGOに関する税・法人制度改革連絡会総会報告、仙台市産業振興事業団のご紹介、
CB事業での事業団との連携について/SCとの連携について

(4) 個人情報管理ガイドラインの策定

2005年4月1日の「個人情報の保護に関する法律」施行に備えて、センターの業務にて
て取り扱う個人情報の管理方法について、ガイドラインの策定を行った。

策定にあたっては、大町事務局とサポートセンター事務局の情報管理担当者間で打ち
合わせを重ね、個別業務の状況に即したガイドラインの策定に努めた。

担当者レベルで策定したガイドライン案について、事業企画戦略会議および理事会にて
検討した後、2005年4月～6月の試行期間を経て、2005年7月1日付けで「せんだい・み
やぎNPOセンター 個人情報管理ガイドライン」として施行した。

6. 職員・ボランティアスタッフについて

2004年度に入り早々にインターン、プロジェクト担当スタッフ、非常勤職員と常勤職員の採用により、新たな担い手が加わり事業を遂行していった。特に2005年春には、サポートセンターの人員体制に変化があった。新人職員の受入にあたっては研修内容等、徐々にしくみも定着してきている。これらは外部からの視察や研修メニューにも応用できるようになってきている。

(1) 職員体制(2005年6月末現在)

せんだい・みやぎNPOセンター勤務(仙台市青葉区大町):7名

常務理事:加藤 哲夫、紅邑 晶子

事務局長:紅邑 晶子

事務局次長:青木ユカリ、遠藤 智栄

常勤職員:遊佐さゆり、工藤 寛之(~05.6.26)

非常勤職員:高田 篤、小松 敏成(04.8.3~)、西舘 和則(04.10.14~30)

仙台市市民活動サポートセンター勤務(仙台市青葉区本町):15名

センター長:青木ユカリ(~05.3.31)、遠藤 孝志(05.4.1~)

副センター長:遠藤 孝志(04.7~05.3)、真壁さおり(04.7~)

常勤職員:伊藤 浩子、小松 州子、佐藤 友里、高橋 信恵(05.3.14~)八田 篤、
本田 ふみ、門間 裕美(05.3.14~)、渡辺幸代、中津涼子(~05.3.31)、
能藤 玲子(05.3.15~休職)

非常勤職員:安達 智史(04.8.30~)、飯塚 文子(05.1.11~)、太田 貴(05.3.14~)、
関口 憲一(05.3.14~)、布田 剛(04.8.30~)、小口 翠(~04.11.20)、
滝澤 陽子(~04.8.20)、田口 暁子(~04.9.4)、前田 和幸(04.8.2~05.3.20)

(2) ボランティアスタッフとの関わりについて

今年度はボランティアスタッフ募集を積極的に行わなかった。ただし、当センターの年度末近くにお問い合わせをいただき、現在1名、事務局のサポートに来ていただいている。

ボランティア:1名

お名前:佐藤 令子さん(05.5.23~)

(3) インターンシップの受け入れ

特定非営利活動法人 市民社会創造ファンドのインターンシップ奨励プログラム「NPOの現場を市民社会の小さな学校に」による2名のインターンの受け入れを行った。

林 真紀さん(宮城大学大学院 事業構想学部 1年)

前田 和幸さん(宮城教育大学 教育学部 4年)

林さんには、「せんだいCARE S 2004」を中心に事業の管理・運営を担当してもらい、

前田さんには、「NPO情報ライブラリー」のデータベース更新と「みんなファンド」に関連する宮城県内における助成金状況についての調査を担当していただいた。1年間のインターン期間というなかで、学業とインターンシップの時間の調整が難しいところがあったが、大学生活では体験できない「市民社会の学びの場」として多くのことを提供することができた。

また、昨年実施した財団法人仙台市産業振興事業団の事業「ジョブ・トライアル 若者のため就業体験研修」では1名(的場由実さん)、宮城県より、みやぎ地球市民すくすく計画2004・青年リーダーすくすくプログラムからも、インターン生を2名(小保方陽介さん、高橋英子さん)受け入れた。(7月～9月の間の4日間)



研修中の様子。今日の講師は加藤さん(左手前)。

左から、林さん、小松(敏)さん、前田さん、右手前、高橋さん、小保方さん

II . センターの事業に関する事項

1 . 政策提言（アドボカシー）活動

公益法人改革やNPO支援税制等、NPOに関わる国の制度については、2004年度も継続して取り組んだ。地域のNPOや市民に共通する自治体の政策について、関係するNPOと共にワーキンググループをつくり政策提案に取り組んでいく手法を開発する方向で連続講座「NPOが社会を変えられない5つの理由」を開催し、冊子にまとめた。次のステップへの第一歩になった。

(1) NPO税・法人制度改革関連

1) NPO法制度・税制度（公益法人制度改革）学習会の開催

「認定NPO法人制度」改正を目的にNPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会が実施した全国キャンペーンの一環として「知らなきヤソソソ・NPO支援税制学習会 NPOへの寄付がもっともっと集まるように！ 認定NPO法人制度改革のための全国キャンペーン仙台場所」と題した学習会を、以下の要領にて開催した。（2004年12月のセナードサロンとして開催）

実 施：2004年12月18日（土） 14：10～15：50
会 場：仙台市青葉区中央市民センター 第1会議室
参加者数：20名
主 催：当センター
協 力：シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会



学習会の様子 2004.12.18

NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会

講師のシーズ＝市民活動を支える制度をつくる会事務局長 松原明さんから、認定NPO法人制度の改革の状況について講演をいただいた他、地元選出の国会議員、NPO関係者、企業関係者などからコメントをいただいた。

NPO法ができて以来、事業収入の伸びは介護保険などもあり著しいが、寄付・会費収入はそれほど伸びていない。認定NPO法人制度は、会費・寄付を集め、支援者を広げていくNPOらしい活動を支えるための制度的なしくみとして導入されたものであること。しかし、2001年にスタートした制度だが、今回の改正でもまだまだ不十分である。一例としてパブリックサポートテストだが、日本の制度はアメリカの制度と違っている。アメリカでは、政府・自治体からの補助金・委託金などもパブリックなものとして算入できるが、日本ではそうっておらず、結果として「寄付金テスト」になっているなど課題がまだある。今後は公益法人制度改革にあわせて、取り組みを続けていく必要があるとのことであった。学習会の記録は、ホームページに掲載し、積極的に情報発信を行った。

(http://www.minmin.org/sendado/sendado200412_2.htm)

2) NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会などへの参加・協力

(i) NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会が行った、認定NPO法人制度の改善に向けた署名活動、国会要請行動(11月17日)、東京決起集会(同日)について、呼びかけ・告知・参加等協力を行った。

(ii) 自由民主党主催「これからのNPO・NGO並びに市民活動を考えるタウンミーティング in 宮城」について、パネリスト派遣等の協力を行った。

(2) 地域のNPO施策に対する提言

1) 「NPOマネジメント・サポート事業(中間支援センター・エンパワーメント事業、マネジメントセミナー事業)」(主催:宮城県)の審査内容に関する「質問書」の提出

2) 「宮城県民間非営利活動促進基本計画」改定に伴う、改定案の提出等

宮城県が民間非営利活動促進委員会の場合などで進めた「宮城県民間非営利活動促進基本計画」の改定プロセスに対し、委員を派遣するとともに、(1)せんだい・みやぎNPOセンターとしての改定案の提出、(2)県が行ったパブリックコメント募集に際して、県内のNPOに対し意見を提出するように呼びかけ、といった提言活動を行った。

なおその結果、基本計画は、大幅な見直しと加筆が行われ、県議会で可決され施行される見通しである。

詳しい経緯については、ホームページに掲載した。

(<http://www.minmin.org/houseido/miyagipub200502.htm>)

3) 県議会との連携

県会議員からの相談・問い合わせに対して、随時対応した。

(3) みやぎのNPOの政策提案力をつける連続講座の開催

事業名：2004年度 社会福祉法人宮城県共同募金会配分金事業

市民の提案力向上セミナー「NPOが社会を変えられない5つの理由」

目的：1998年12月1日、特定非営利活動促進法が施行され、「NPOは社会を変える！」とNPOという概念とNPO法人が華々しく登場した。それから6年、18,000の法人が生まれましたが、実際に社会は変わったのだろうか？

確かに、社会の様々な分野でNPOは活躍している。しかし、制度やシステムを変え、社会をリードしていく役割を十分に果たしているかといえば、まだまだではだろうか。そこで、豪華講師陣を迎えて6回の連続セミナーで“5つのできない理由を”参加と一緒に考えたい、市民の提案力を磨きたいと考え、宮城県共同募金会の配分金をいただき、連続講座を実施した。

呼びかけたところ、たくさんのNPOの皆さんから素早い反応をいただき、毎回充実した講座が実施できた。また、成果物として制作した『NPOが社会を変えられない5つの理由』というブックレットは、講座内容をコンパクトにまとめた政策提案の手引書として好評である。

成果：

6回連続参加と参加費負担にもかかわらず多数のNPO関係者の参加があり、毎回熱心な聴講と質疑・討議が相次いだ。社会に新しい価値や事業を提案していく力を養うための講座として、体系的な講義は参加NPOの大きな力となることだろう。本講座の記録は『NPOが社会を変えられない5つの理由』という小冊子にまとめ、出版することができた。



内容：全6回連続講座

第1回 2004年11月25日(木) 18:30~20:30



「権利を知らない」～情報公開制度と市民の権利～

三木 由希子氏 特定非営利活動法人 情報公開クリアリングハウス 室長

第2回 2004年12月2日(木) 18:30~20:30



「制度を知らない」～行政の仕組みを知ろう！～

川北 秀人氏 I I H O E [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者
芝原 浩美氏 同上 上級研究員

第3回 2004年12月9日(木) 18:30~20:30



「調べられない」～市民による調査の技術～

宮内 泰介氏 北海道大学大学院文学研究科 助教授

第4回 2004年12月16日(木) 18:30~20:30



「形にできない」～思いを提案にまとめる力～

新川 達郎氏 同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授

第5回 2005年1月13日(木) 18:30~20:30



「伝えられない」～広報と提案戦略～

松原 明氏 シーズ=市民活動を支える制度をつくる会 事務局長

第6回 2005年1月27日(木) 18:30~20:30



「やってみよう」～実際に提案をつくる～

加藤 哲夫 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事

会 場：仙台市市民活動サポートセンター

第1回・第3回・第4回・第6回 3階 セミナーホール

第2回・第5回 3階 研修室1

*なお、本事業はトヨタ財団の助成を得て実施してきた政策提言に関する調査研究が財団側の都合で打ち切りになったため、その内容を継承したものである。

(4) その他

行政等による各種委員会、審議会等への委員委嘱協力：23件（委嘱順）

| | 名 称 | 主 催 | 期 間 |
|----|--|----------------------|---------------------|
| 1 | 宮城県民間非営利活動促進委員会 | 宮城県 | H13.10.1～H17.9.30 |
| 2 | 仙台市都市計画審議会 | 仙台市 | H14.8.1～H16.7.31 |
| 3 | 仙台都市圏総合都市交通協議会 | 宮城県 | H14.9.10～H17.3.31 |
| 4 | グリーン電力基金運営委員会 | (財)東北産業活性化センター | H15.1.～H16.12 |
| 5 | 仙台国際音楽コンクール関連事業企画委員会 | (財)仙台市市民文化事業団 | H15.2.26～H16.12.31 |
| 6 | (財)宮城県地域振興センター評議員会 | (財)宮城県地域振興センター | H15.4.1～H17.3.31 |
| 7 | 仙台市社会教育委員 | 仙台市生涯学習課 | H15.11.1～H17.10.31 |
| 8 | 仙台市市民公益活動促進委員会 | 仙台市 | H16.1～H17.12 |
| 9 | 仙台市環境審議会 | 仙台市 | H16.4.1～H18.3.31 |
| 10 | 宮城県地球温暖化防止活動推進員研修事業企画検討委員会 | (財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク | H16.5.7～H17.3.31 |
| 11 | 杜の都の市民環境教育・学習推進会議 | 杜の都の市民環境教育・学習推進会議 | H16.5.24～H17.3.31 |
| 12 | みやぎボランティア総合センター運営委員会委員 | 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 | H16.6.1～H18.5.31 |
| 13 | みやぎボランティア総合センター運営委員会みやぎハートフルバンク特別委員会委員 | 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 | H16.6.1～H18.5.31 |
| 14 | 柴田町住民自治基本条例検討委員会 | 柴田町 | H16.6.30～H17.3.31 |
| 15 | 仙台市廃棄物対策審議会委員 | 仙台市 | H16.7.1～H18.6.30 |
| 16 | 宮城県遊休施設等の有効利用によるNPOの拠点づくり事業運営委員会 | 宮城県環境生活部NPO活動促進室 | H16.7.20～H18.3.31 |
| 17 | 地球環境基金評価専門委員会 | (独)環境再生保全機構 | H16.8.1～H18.7.31 |
| 18 | 仙台市健康福祉局指定管理者選定委員会 | 仙台市 | H16.10.12～H17.1.31 |
| 19 | 仙台市青葉区まちづくり活動助成事業評価委員会 | 仙台市 | H16.10.13～H18.3.31 |
| 20 | 仙台市情報化推進会議 | 仙台市 | H16.11.29～H18.11.28 |
| 21 | 総合型地域スポーツクラブ育成助成金審査委員 | (財)仙台市スポーツ振興事業団 | H17.3.1～H19.2.28 |
| 22 | 仙台市太白区まちづくり活動助成事業評価委員会 | 仙台市 | H17.4.1～H18.3.31 |
| 23 | 宮城県民間非営利活動プラザ運営評議会 | 宮城県民間非営利活動プラザ | H17.6.1～H18.3.31 |

2. マネジメントサポート（相談・講座・NPO向け講師派遣）

宮城県のマネジメント講座を実施することができ、仙台市以外の地域での一定の成果があった。あわせて地球環境基金の二つの講座、仙台市産業振興事業団のコミュニティビジネス開発講座、仙台市市民活動サポートセンターの人材育成講座や起業講座など、多数の講座の実施をすることができた。今後は、個別相談体制の強化やコンサルティングのニーズに対する対応が検討課題である。

（1）コミュニティビジネス開発講座

事業名：コミュニティビジネス開発講座

主催：財団法人 仙台市産業振興事業団

企画・実施：当センター

成果：

- (1) 今年の講座のねらいとして、それぞれのターゲットを起業家や事業者への引き上げを目的としたが、受講者がプチ企画を実践したことで、それぞれの立場で活動や起業に踏み出すことができた。NPOと企業との連携、協働でCBを実践する事例もあり、今後の新しい可能性を引き出すことができた。
- (2) 事業プラン見本市を開催することで、お互いの事業プランを参考にしたり、起業している人から学ぶ機会もあり、交流の場やコミュニティづくりの提供ができた。また、新しい事業プランの参考にもなった。
- (3) メーリングリストを活用したことで、受講生同士の交流、連携、情報交換が促進できた。
- (4) 事業プランコンテストなどで、受講生の受賞が相次いだ。

事業期間：2004年7月29日（木）～2004年11月26日（金）

講座実施等回数：7回（講座4回、見本市1回、カウンセリング2回）

講座会場：Nest せんだいなど 受講生：33名

実施のねらい：

(1) コミュニティビジネス開発講座（全4回）

7月から11月まで4回に渡る連続講座の開催し、より具体的な起業家の掘り起こしと、事業プランを持つ個人やNPO、企業をより起業家や事業者へ引き上げることをねらいとし、その為のノウハウの提供をする。

(2) コミュニティビジネス事業プラン見本市（1回）

これまでの当講座の受講生やCBの実践者が集い、交流や情報交換、ネットワーキングの機会の提供や、（財）仙台市産業振興事業団との連携を促進する。

(3) カウンセリング（2回）

受講生の事業企画のワークシートを元にして、カウンセリングを行う。効果的なプチ企画の実施とその後の事業実施のためにアドバイスや情報提供を行う。

(2) NPOマネジメント実践講座2004

事業名：NPOマネジメント実践講座

主催：宮城県

企画・実施：当センター

協力：(特活)いしのみきNPOセンター、白石市民活動フォーラム

目的：本事業においては「基礎の確認」と「基礎を踏まえた応用力のアップ」を目指す。そのために、基礎研修ではまず「共通研修」を実施し、実践研修では2つとも「NPO法人の社会的役割と義務と責任」を組み込む。これらの研修を実施することで、地域社会から信頼され、地域課題の解決に成果をあげる団体に成長する一助にしたいと考える。

成果：

アンケートの結果からみると、満足度の高い講座を提供することができており、目的の達成が実行できたといえるだろう。また、部分的に参加型の講座進行を取り入れることで受講生の満足度も高かった。各地の中間支援センターとも協力し、県内での支援組織や施設を紹介したり、宮城県の施策もPRすることができた。

実施結果：

- 1) 開催時期：2004年9月～11月
- 2) 開催地：古川市、石巻市、白石市(県内3地域)
- 3) 資料代：基礎編/A・B・C = 各1,000円
実践編/D・E = 各1,500円
- 4) 対象者：基礎編 - 地域で活動している住民グループ、NPO(任意団体・法人とも)市町村の行政職員、これから地域で活動をはじめようと考えている方など
実践編 - 主にNPO法人格を持つ団体、これから法人格を取得しようと考えている県民など。

5) 内容：

基礎編 基礎A：「NPOの可能性と団体運営の基礎」 9:30～16:30

講師/加藤哲夫(特活)せんだい・みやぎNPO
センター代表理事・常務理事

日程/石巻 9/18(土) 石巻専修大学
古川 9/19(日) 宮城県古川合同庁舎
白石 9/20(月) ホワイトキューブ

内容/NPOって何?地域での住民の活動の可能性、NPOと行政・企業との協働、組織・事業の作り方、ニーズに基づく事業開発、資金調達の基礎など

参加者数/石巻16名、古川25名、白石20名



基礎B：「広報と対外コミュニケーション」 9：30～12：30

講師 / 大泉浩一氏 メディアデザイン代表、ライター・編集者

日程 / 石巻 10 / 9 (土) 石巻文化センター
古川 10 / 10 (日) 古川市市民活動
サポートセンター
白石 10 / 11 (月) ホワイトキューブ



内容 / 団体の活動に関心を持ってもらう方法、
効果的な広報とそのツール、IT活用法 (Eメール、ホーム
ページ、メーリングリスト、メールマガジン) など

参加者数 / 石巻 15 名、古川 15 名、白石 16 名

基礎C：「人材開発 (スタッフ、ボランティア、理事)」 13：30～16：30

講師 / 田村太郎氏 I I H O E [人と組織と地球のための国際研究所]
研究主幹

日程 / 石巻 10 / 9 (土) 石巻文化センター
古川 10 / 10 (日) 古川市市民活動
サポートセンター
白石 10 / 11 (月) ホワイトキューブ



内容 / 効果的な人材の募集・育成、ボランティアが生き生きするコ
ツ、運営委員・理事の役割と責任など

参加者数 / 石巻 10 名、古川 14 名、白石 26 名

実践編 実践D：「NPO法人の会計と税務」 10：00～16：00

講師 / 早坂毅氏 NPOコンサルタント・税理士

日程 / 石巻 11 / 3 (水祝) 石巻専修大学
古川 11 / 6 (土) 古川市市民活動
サポートセンター
白石 11 / 7 (日) 白石市いきいき
プラザ



内容 / NPO法人の義務と責任、会計の目的と基本、NPO法人の
会計・決算・税務など

参加者数 / 石巻 19 名、古川 14 名、白石 23 名

実践E：「成果を導く事業計画と資金調達」 10：00～16：00

講師 / 加藤哲夫 (特活) せんだい・みやぎNPOセンター代表理事・
常務理事

日程 / 石巻 11 / 20 (土) 石巻専修大学
古川 11 / 23 (火祝) 古川市市民活動サポートセンター
白石 11 / 21 (日) ホワイトキューブ

内容 / NPO法人の義務と責任、事業開発、効果的な事業計画の立
て方、NPOの財源と効果的な資金調達の方法など

参加者数 / 石巻 11 名、古川 16 名、白石 14 名

(3) NPOブラッシュアップセミナーの企画協力・講師派遣 初年度事業

主催：日本NPOセンターブラッシュアップセミナー企画委員会

共催：(特活)ひろしまNPOセンター、(特活)くびき野NPOサポートセンター

協賛：フィリップ モリス ジャパン株式会社

目的：NPO法の施行から5年、2003年12月末には14,000を越える団体が法人格を取得して活動しているが、その組織力はまだまだ脆弱であり、地域で信頼される組織として定着するためには、各団体の努力と具体的な支援の仕組みが必要である。今後、社会の公益的なサービスの担い手として期待される、各地のNPOのキャパシティービルディング支援を行うことを目的に本事業を実施する。

本事業は、全国のNPOを対象として行うものであり、2004年から各地で開催し、3年間は事業を継続して行う。本事業の実施を通して、各地でNPOの支援事業を展開する、NPO支援センターの力量形成についても寄与する。

期間：2004年1月～2006年12月31日(3年間)

概要：初年度は、地域のNPO支援センター職員の協力の下、地域のNPOが具体的に必要とする組織支援について研究し、その組織支援の具体的な方法を検討した。同時にその成果をカリキュラムとして、セミナー企画を構築し、各地のNPOに対してトレーニングを行った。

開催地域：北陸(新潟)、中国(広島)

第1年度(初年度)

(1) 組織のキャパシティービルディング研究会(第1年度のみ 5回実施)

第1回：6月10日、第2回：7月12日、第3回：8月5日、

合宿(模擬講義)：10月25・26日

(2) 地域別にセミナーを実施(3地域)

・ひろしまNPOセンター 12月18・19日、1月8・9日

・くびき野NPOサポートセンター 1月28・29日、2月4日・3月5日

常務理事・事務局長の紅邑が「組織を正しく知ってもらうための情報発信のあり方」の講師として、2地域のセミナーに参加した。

(4) 地球環境市民大学校研修業務 北海道・東北ブロック

「組織マネジメント講座・協働コーディネーター養成講座(平成16年度)」

主催：独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部

企画協力・実施：当センター

成果：

- ・事例紹介に解説を加え理論的な講義も行ったことで、より効果的な講座となった。
- ・「協働コーディネーター講座」では、事例紹介のゲストとしてNPOと行政の双方が参加したことで、より深く事例を掘り下げることができた。
- ・1日目の講座終了後に交流会を設けたことで、その後の受講者同士の交流につながることができた。
- ・地球環境基金のスタッフが講座を通して参加したことで、質疑に回答することができ、主催者である地球環境基金に対する理解を深めることができた。

【組織マネジメント講座】

開催日程：2004年12月11日(土)～12日(日)

参加者：24名

ねらい：東北各地から各テーマについてそれぞれ活動実績の高い団体(5団体)を招いて具体事例を聞きながら、より現場に密着したアドバイスを行うことで、マネジメント手法を習得し、実践への導入を効果的に行うことを目的とした。また、ワークショップや交流会を通じて、参加者同士の交流の機会を提供することにより、受講後の団体相互の課題解決にむけた情報交換に寄与する。

概要：5つのセッションを設け、ゲストがテーマに沿った事例を報告した。事例報告後の質疑応答やコーディネーターのまとめにより理解を深め、効果的にマネジメントの手法を学んだ。

マーケティング・事業開発 (2)人づくりと権限委譲 (3)資金調達
(4)目的・目標の設定(5)広報・情報戦略

【協働コーディネーター養成講座】

開催日程：2005年1月22日(土)～23日(日)

参加者：34名

ねらい：具体的な協働事例(3事例)を聞きながら、より多角的な視点から「協働」を分析し、受講者が協働コーディネーターの役割が果たせるように導くことを目的とした。また、ワークショップや交流会を通じて、参加者同士が情報交換を実施することにより、東北における「隠れた協働」を明らかにする。



概要：5つのセッションを設け、ゲストが協働の事例について、それぞれの立場から報告した。また、協働についての講義を行うことによって理解を深めた。質疑応答やワークショップを通じて参加型の講座を実施した。

- (1) 協働とは何か 協働の歴史と考え方について
- (2) 協働と市民参加によく効く 「ファシリテーション」とは
- (3) NPOと企業の協働を進めるには
- (4) 事例から学ぶ
- (5) 協働を実践するためのノウハウとは

(5) NPO経営相談（自主事業）

相談件数：25件（NPO：17件、個人：8件）のべ37名

相談総時間：29時間

今年度の相談内容の傾向としては、立ち上げたばかりのNPO法人の担当者からの年度末の事務全般に関する内容（決算、総会までの段取り、諸手続き等）、NPOの立ち上げ相談、展開期のNPO法人からの事業戦略に関する相談が目立った。

(6) その他、講師派遣等

(1) NPO・市民活動団体等向け研修等：71件（142回）

| | 研修名 | 主催 | 実施日 |
|---|---|----------------------------|---|
| 1 | 「アレマ隊員養成講座」「まち美化ネットワーク世話人会」「まち美化タウンミーティング」「アレマ隊出前講座」「アレマ会議」 | 仙台市環境局 | 2004/7/3・20・8/24・9/2・9/5・24・11/15・2005/3/24 |
| 2 | 部会研修会 | 仙台市I・V・ネットワーク | 2004/7/9 |
| 3 | 自助グループのためのマネジメント講座 | （特活）宮城県断酒会 | 2004/7/10・31・8/28 |
| 4 | 組織のキャパシティービルディング研究会 | 日本NPOセンターブラッシュアップセミナー企画委員会 | 2004/7/12・8/5・10/25・26 |
| 5 | 理事研修 | （特活）あかねグループ | 2004/7/14 |
| 6 | わくわく祭り | （特活）わくわくネット・はくい | 2004/7/19 |
| 7 | どんどん元気になる市民活動術！ | 新潟県長岡地域振興局 | 2004/8/8・29・9/23・10/3・17 |
| 8 | コミュニティ・ビジネス開発講座・個人カウンセリング・見本市・サロン | （財）仙台市産業振興事業団 | 2004/7/29・8/5・9・11・18・26・10/4・10/28・11/4・24・25・26・2005/3/10 |

| | 研 修 名 | 主 催 | 実 施 日 |
|----|---|---------------------------|--|
| 9 | クリーン仙台推進員グループ学習会 | 仙台市環境局 | 2004/8/12・9/7・10/5・ 11/16・12/2 |
| 10 | 福島NPO研究会 | (特活)ふくしまNPOネット ワークセンター | 2004/8/18 |
| 11 | NPOの底力 ～NPO活動報告&NPO FUSION出版 記念シンポジウム～ | (特活)NPO FUSION長 池 | 2004/8/28 |
| 12 | 多文化セミナリオみえフォローアップ研修・成 果発表会 | (財)三重県国際交流財団 | 2004/9/11・12 |
| 13 | みやぎ青年育成推進事業「みやぎ地球市民すく すく計画 2004」市民プロデューサー養成講座 | 宮城県環境生活部 | 2004/9/11・18・10/2・ 3・12/4 |
| 14 | 宮城県のまちづくりNPO集まれ! =コラボサミット=「市民農園から地域づくりへ」 | (特活)まちづくり政策フォー ラム | 2004/9/11 |
| 15 | NPOと行政との協働に関するセミナー 「NPOと地方自治体-協働に求められるも の」 | 宮城県環境生活部 | 2004/9/16 |
| 16 | 宮城県NPOマネジメント実践講座 2004 | 宮城県 | 2004/9/18・19・20・ 10/9・10・11・11/3・6・ 7・20・21・23 |
| 17 | 協働によるまちづくり市民会議における基礎講 座 | (特活)いわてNPO-NE Tサポート | 2004/9/22 |
| 18 | 平成16年度会員研修会「いきいき活動のコツ」 | (特活)でんでん宮城いきいき ネットワーク | 2004/10/2 |
| 19 | 地域活性化フォーラム in 福井「はじめよう、創 意工夫のまちづくり～行政と市民が一体となる 社会を考えて～」 | 福井市、(財)地域活性化センタ ー | 2004/10/8 |
| 20 | NPOフォーラムふくい | | 2004/10/9 |
| 21 | 平成16年度青い森未来を創る青年塾・研修会 | 青い森未来を創る青年塾実行委 員会 | 2004/10/9 |
| 22 | エル・パークフォーラム 2004 研修 「魅力ある会場の作り方」 | (特活)イコールネット仙台 | 2004/10/20 |
| 23 | NPO・自治会マネジメント講座 | (特活)いわてNPO-NE Tサポート | 2004/10/23・11/7・14・ 12/5 |
| 24 | 平塚みんなで集まるなるほどフォーラム 「市民活動はおもしろい!」 | (特活)みんなでつくる平塚 | 2004/11/6 |
| 25 | 協働推進ワーキンググループ・協働フォーラム 「実践で作る仙台スタイルへのステップ」 | 仙台市市民局 | 2004/11/10・27 |

| | 研 修 名 | 主 催 | 実 施 日 |
|----|---|----------------------------|----------------------|
| 26 | やまもとわたり田園空間博物館リーダー養成講座「NPO法人設立に向けて」 | 山元町 野外ぐるりん友の会 | 2004/11/18 |
| 27 | 秋田ALIVEナイトリーセッション2004 「ここから生まれる新しい共創の風」 | 秋田市民交流プラザ管理室 | 2004/11/13 |
| 28 | 全国子どもごみシンポジウム2004 | (社)全国青年の家協議会 | 2004/11/16 |
| 29 | 矢本町住民向け講演会「生き残る住民活動団体」 | (特活)いしのみきNPOセンター | 2004/11/18 |
| 30 | 地球環境市民大学校 「組織マネジメント講座in名古屋」 | (独)環境再生保全機構地球環境基金 | 2004/11/20 |
| 31 | 東久留米市まちづくり学習会 | (株)ソシオエンジン・アソシエイツ | 2004/11/30 |
| 32 | 富谷町社会福祉協議会法人化20周年記念福祉大会記念講演「これからの地域福祉について」 | 富谷町社会福祉協議会 | 2004/12/4 |
| 33 | 地球環境基金地球環境市民大学校組織マネジメント講座「聞くは一時・効果は一生!」 | (独)環境再生保全機構地球環境基金 | 2004/12/11・12 |
| 34 | 地球環境市民大学校・環境NGOと市民の集い 「あらたな連携のかたちを見つけよう!環境NGO・企業のパートナーシップ」 | (独)環境再生保全機構地球環境基金 | 2004/12/15 |
| 35 | NPO講座 「事業で勝負をしているか! ~自主事業の確立をめざして~」 | 那覇市NPO活動支援センター | 2004/12/18・19 |
| 36 | NPOブラッシュアップセミナー 「広島編」「新潟編」「研修検討合宿」 | 日本NPOセンターブラッシュアップセミナー企画委員会 | 2005/1/8・3/5・5/12・13 |
| 37 | 第2回NPO学習会 | 秋田 地産地消を進める会 | 2005/1/8 |
| 38 | 平成16年度チャレンジコミュニティ創成プロジェクト「第4回ギャザリング」 | (特活)ETIC. | 2005/1/14 |
| 39 | NPO理事スタッフのための連続講座4 「底力のある広報へ」 | (特活)茨城NPOセンター・コモンズ | 2005/1/14 |
| 40 | 宮城県地球温暖化防止活動推進員等研修 「プレゼンテーションやワークショップ的手法について」 | (財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク | 2005/1/15 |
| 41 | ペットシッター事業化プロジェクト勉強会講演 | (財)仙台市産業振興事業団 | 2005/1/17 |
| 42 | 地球環境基金地球環境市民大学校協働コーディネーター養成講座「愛する人ほどにくらいしい? 行政・企業とNPOの幸福な関係とは・・・」 | (独)環境再生保全機構地球環境基金 | 2005/1/22・23 |

| | 研 修 名 | 主 催 | 実 施 日 |
|----|--|--------------------------|--------------------|
| 43 | 政策学校一新塾 | (特活)一新塾 | 2005/1/29 |
| 44 | 栃木県NPOマネジメント講座 「NPOの可能性をマネジメントする」 | 栃木県 | 2005/1/30 |
| 45 | NPO総合マネジメント科 | (特活)NPO推進ネット | 2005/2/8 |
| 46 | 講演 | 仙台印刷工業団地協同組合青年部 | 2005/2/9 |
| 47 | 市民活動(NPO・ボランティア)フォーラム 「ちいさな一歩からはじまる市民活動の新しいかたち」 | 一関地方振興局、(特活)レスパイトハウス・ハンス | 2005/2/11 |
| 48 | 仙台市花と緑のアドバイザー養成講座フォローアップ講座 | (財)仙台市公園緑地協会 | 2005/2/17・24 |
| 49 | 次世代ワークショップ「相談カフェ」 | (有)ピー・エス・サポート | 2005/2/18 |
| 50 | NPOと行政の対話フォーラム'05 | (特活)日本NPOセンター | 2005/2/18 |
| 51 | 多文化セミナー | (財)三重県国際交流財団 | 2005/2/20 |
| 52 | 市民による百年の杜づくり講座 | 仙台市建設局 | 2005/2/22・3/1・8・22 |
| 53 | 市民トラストの森講座 | 仙台市建設局 | 2005/2/26・3/12・13 |
| 54 | 第2回NPOフォーラムinやちよ | NPOフォーラムinやちよ実行委員会、八千代市 | 2005/2/26 |
| 55 | 研修会 | (特活)仙台市スポーツ連盟 | 2005/3/1 |
| 56 | 高松における市民活動の未来 | 高松市ボランティア・市民活動センター | 2005/3/6 |
| 57 | 我孫子市市民活動レベルアップセミナー | (特活)日本NPOセンター | 2005/3/7 |
| 58 | 利府町町民活動団体研修会 | 利府町町民活動団体研修会 | 2005/3/4 |
| 59 | 第2回ボランティアフォーラム | 仙台市太白区社会福祉協議会 | 2005/3/8 |

| | 研 修 名 | 主 催 | 実 施 日 |
|----|---|-----------------------|---------------------|
| 60 | ～みんなで生きる福島のおした～市民活動フェスティバル2005 シンポジウム 「NPOが社会を変えられない5つの理由」 | 市民活動推進交流フェスティバル実行委員会 | 2005/3/19 |
| 61 | シンポジウム「秋田県における指定管理者制度について」意見交換会「秋田県のNPOネットワークを考える」 | (特活)あきたNPOセンター | 2005/3/18・19 |
| 62 | 「ヤングジョブスポット」フォーラム | (独)雇用・能力開発機構宮城センター | 2005/3/22 |
| 63 | NPOづくり基礎講座 「ミッションを実現するための計画・組織づくり」 | (特活)ふくしまNPOネットワークセンター | 2005/3/27 |
| 64 | 市民の森講座&フィールドワーク | 仙台市建設局 | 2005/4/23・5/15・6/19 |
| 65 | 仙台冠ロータリークラブ例会 | 仙台冠ロータリークラブ | 2005/5/11 |
| 66 | NPO支援センターやボランティアセンターの支援力強化のための2日間 「7つのチカラ・無限の一步」 | 公益・非営利支援センター東京 | 2005/5/16・17 |
| 67 | コミュニティビジネス起業論 | 東北公益文科大学大学院 | 2005/5/21・6/4・18 |
| 68 | 公開セミナー「利用する市民から、運営する市民へ～公共施設の市民運営を考える」 | 協働 参加のまちづくり市民研究会 | 2005/5/29 |
| 69 | スタッフ研修受入 | (特活)レスパイトハウス・ハンズスタッフ | 2005/6/10 |
| 70 | 豊中市まち美化フォーラム | 豊中市 | 2005/6/16 |
| 71 | 最上川リバーツーリズムセミナー | 最上川流域観光交流推進協議会 | 2005/6/17 |

(2)研究会参加：1件(9回)

| | 名 称 | 主 催 | 実 施 日 |
|---|----------------------------------|---------------|--|
| 1 | NIRA・コミュニティ再生研究班 「ヒアリング調査」研究会 | (財)東北開発研究センター | 2004/7/23・8/24・ 12/6・2005/1/14・28・ 4/24・25・5/27・28 |

(3)企業向け内部研修：1件(2回)

| | 研 修 名 | 主 催 | 実 施 日 |
|---|----------------------------|------------|----------------|
| 1 | ライフプランセミナー50「社会参加と生きがいづくり」 | 日本たばこ産業(株) | 2004/8/25・9/29 |

3. ネットワーキングサポート

地域でのネットワーキングサポートとしては、センダードサロンが定着し、新しい顔ぶれも交えて様々なテーマ・分野での情報提供や交流が進んだ。また、当センターとしては、全国の支援センターとの連携によるアドボカシー活動、プログラムオフィサーの育成も兼ね、全国の助成財団との情報交換に努めた。

(1) 市民活動団体の交流広場「センダードサロン」の主催・企画・実施

NPOの活動上の課題の一つである「ネットワーク形成」を促進し、交流・力づけのための場づくりを行うことで、NPOを支援し地域課題の解決につなげてきた。今年度は、常勤スタッフが交代で担当し、企画を実施した。

成 果：

様々なテーマ・分野での情報提供や交流の場を提供することで、NPOのネットワークを促進することができた。また、ノウハウや最新事情を提供することでNPOの団体運営に役立った。2004年7月から2005年6月まで10回開催。

- <2004年> 7月27日(火) 17:00~21:00 参加者:7名
募金箱づくりワークショップ「つくればザクザク募金箱」
- 8月24日(火) 17:00~21:00 参加者:13名
「災害のBefore After どう活かすNPOネットワーク」
- 9月28日(火) 17:00~21:00 参加者:12名
「実行委員会のホンネ~なぜあそこはうまくいくの?~」
- 10月13日(水) 17:00~21:00 参加者:24名
「新聞・テレビ・ラジオ 担当者に直接聞く!メディア活用のコツ」
- 11月27日(土) 17:00~21:00 参加者:9人
「もっと知りたいNPO! ~事業報告書・決算書を見に行こう~」
- 12月18日(土) 17:00~21:00 参加者:20名
「認定NPO法人制度改正のための全国キャンペーン仙台場所知らなきゃソソソ
NPO支援税制学習会 NPOへの寄付がもっともっと集まるように!」
- <2005年> 1月19日(水) 17:00~21:00 参加者:66名
「活動はじめは交流会から センダード新年交流会2005」
- 2月24日(木) 17:00~21:00 参加者:12名
「NPOスタッフの“ためになる裏技 ワード編~図”や写真の作り方&入れ方~」
- 3月25日(金) 17:00~21:00 参加者:13名
「学生団体の力で地域を元気に!」
- 6月24日(金) 18:30~21:30 参加者:13名
「4億4千万円のゆくえ~宮城県内NPOへの助成金の現状を報告~」

(2) 各地NPO推進機関との連携

1) NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会

2004年10月4日～ 認定NPO法人制度改革のための署名キャンペーン開始・参加協力
11月17日 国会要請行動及び東京決起集会に出席(紅邑)
12月18日 認定NPO法人制度改革のための全国キャンペーン・学習会開催
2005年6月6日 総会に出席(加藤)

2) 特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

2005年4月15日 NPO助成金担当者交流会に出席(高田・紅邑)

内容：第3回目となったNPO助成金担当者交流会は、行政系財団、企業系財団、企業、NPO、社会福祉協議会、共同募金会など、NPO向けの資金助成をさまざまな立場で、担当している関係者が全国から一堂に集まった。助成のプログラムの決め方、広報、助成先の選考方法やプログラムを実施する上での担当者の課題、NPOの課題などについて、日ごろ情報交換のできないテーマについて話し合うことができ、また新たな人的交流ができた。

4. 情報サポート

民間による情報公開拠点として「NPO情報ライブラリー」を整備して3年目。プログラムの提供がある度に、登録団体数は増えている。あわせて更新情報や提供を受ける際の確認作業など事務量も比例してきていることもあり、当センター内の情報発信業務に関わるスタッフ体制の見直しを行い、強化した。

各種事業の成果品においては、その後にテキストや資料として活用することも想定しながら作成した。特に、団体の広報や情報発信力を高めるためのツールの反響が高く、遠方からもお問い合わせや注文をいただくことも多かった。

(1) NPO情報ライブラリー

前年度までと同様、ファイリングによる団体資料公開(センター事務局内)とインターネットによる情報公開を組み合わせた団体情報発信支援を行った。

サポート資源提供システムや、地域貢献サポートファンドみんなによる資源提供の増加を反映し、NPO情報ライブラリーへの登録数は順調に増加した。2005年6月末現在での登録団体数は128団体(前年同時期102団体)となった。ホームページへのアクセス件数は、1年で56,570件(ページビューカウント)に上った。

また、登録情報の更新についても、資源提供との連動などにより順調に推移している。2005年6月末における情報更新率(過去1年半以内に、登録情報の更新を行っている団体の割合)は、約70%となった。

なお、今年度は、登録・更新作業の一部を、市民社会創造ファンドから派遣されたイン
ターンの業務として実施した。

NPO情報ライブラリー ホームページ

<http://www.minmin.org/Library/>

同 登録団体一覧

<http://www.minmin.org/npo/n-index.php>

今後は、個人情報保護法施行に伴う諸事項（各団体
内個人情報の取り扱い、登録用紙の変更等）の検討や、
登録・更新情報量の増大に伴う、センター内部の処理体制の確保などが課題となる。



（２）情報の収集

必要な書籍・報告書等の購入、全国の支援センターおよびNPO等からのニュースレタ
ー、メーリングにて寄せられる情報収集と整理に努めた。

（３）情報の発信

1) 事務局通信「みんな」の発行（隔月発行）

当センターの会員、NPO中間支援センター、東北各県のNPO担当課を中心に、
事業戦略、事業の進捗状況やNPO支援にかかわる情報提供を隔月で行った。発行部
数 450 部（1回あたり）。

| | | | |
|--------|----------------|--------|---------------|
| Vol.40 | 2004年7月26日（月） | Vol.43 | 2005年1月14日（金） |
| Vol.41 | 2004年9月29日（水） | Vol.44 | 2005年3月28日（月） |
| Vol.42 | 2004年11月24日（水） | Vol.45 | 2005年5月25日（水） |

2) ホームページによる情報発信（随時更新）

前年度に引き続き、センター主催のイベントや講座の案内・報告、サポート資源提
供システムからの資源提供案内といったフロー情報や、センター概要、活動報告・記
録、収支決算、定款、役員名簿などのストック情報を随時掲載した。

トップページ（<http://www.minmin.org/>）に設置しているカウンターによるアクセ
ス数は、以下の通りとなった。

年度内のアクセス数 32,138 件（1日あたり約 87.8 件/日）

累積アクセス数 109,672 件（2000年4月より）

トップページへの1日あたりのアクセス数は、2000年度（約 23 件/日）、2001年度
（約 46 件/日）、2002年度（約 60 件/日）、2003年度（約 81 件/日）と比べて伸び
率はやや鈍化しているものの、増加を続けている。

また、サーバーのアクセス解析により、（１）月別訪問者数（延べ）、閲覧されたペ
ージ数（延べ）、（２）ページの内容別の閲覧ページ数（年間延べ）を集計したのが下

表である。傾向としては、おおむね前年度と同様であった。

| | のべ訪問者数 | 閲覧されたのべページ数 |
|---------|----------------|----------------|
| 2004/7 | 9,103 | 24,966 |
| 2004/8 | 9,082 | 28,219 |
| 2004/9 | 10,034 | 31,202 |
| 2004/10 | 9,480 | 30,188 |
| 2004/11 | 10,106 | 32,165 |
| 2004/12 | 10,980 | 31,506 |
| 2005/1 | 11,482 | 34,048 |
| 2005/2 | 12,730 | 36,566 |
| 2005/3 | 12,403 | 31,161 |
| 2005/4 | 11,011 | 29,486 |
| 2005/5 | 10,570 | 34,488 |
| 2005/6 | 10,195 | 33,021 |
| 合計 | 127,176 | 377,016 |

| | 閲覧ページ数 |
|--------------------------|---------|
| トップページ | 118,809 |
| NPO情報ライブラリー | 56,570 |
| センター団体紹介 | 15,389 |
| サポート資源提供システム ・みんなファンド | 21,451 |
| せんだいCARES | 4,200 |

(左)各月のサイト「のべ訪問者数」と
閲覧されたのべページ数

(上)ページ内容ごとの閲覧のべページ
数の集計

3)「FAXみんな」の発信(随時)

自主事業の講座やイベントの告知等に活用した。

対象：当センター会員、NPO法人(県内、東北)、マスコミ等

(4)書籍販売「みんな堂」

取扱い書籍 60種

2004年度に当センターが発行した書籍は5冊となった(1冊は改訂版)。

以下、当センター発行の書籍リスト

- ・ NPO その本質と可能性<増補改訂版> 2005年5月発行
- ・ NPOが社会を変えられない「5つの理由」 2005年3月発行
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター 5年の軌跡 2004年11月発行
- ・ VOICE OF NPO PROJECT2003
まるごと Hypertext Book 2004年8月発行
- ・ NPO・広報カルテ 2004年7月発行
- ・ ワークブック 市民のチカラ 2004年6月発行

(5)各種取材への協力

- ・ 関西国際交流センター NPOジャーナル vol.9特集【協働とは何か】
- ・ 港湾広報誌「青波～ブルー・ヴァーグ～」
- ・ 国立女性教育会館
- ・ 東京ボランティア・市民活動センター【企業の社会貢献の新しい潮流】

5. 調査・研究・コンサルティング事業（行政・企業向け講師派遣・相談・委託）

自治体の市民参加型事業のコーディネート業務と講師派遣業務においては、企画段階の相談も含めて応じている。なかには3～5年、受講者は異なるが継続して事業に関わっているものもある。その中で、参加した市民、NPOがそれぞれの事業のねらいとする方向で成果を見せている。また、継続的に事業に関わる中で、自治体との協働関係を構築してきている。

（1）地域貢献活動相談センター

企業・各種団体からの相談を随時受付けた。

（2）みやぎ青年育成推進事業「みやぎ地球市民すくすく計画2004」 講師派遣

委託者：宮城県（環境生活部青少年課）

事業名：青年リーダーすくすくプログラム「市民プロデューサー養成講座」

2000年からスタートした事業であったが、今年度（2004年）が最終回の事業となった。参加対象が20代から30代前半であり、市民活動のリーダーとなる人材育成をする場として、当センターは取り組んできた。今年度は、11名の参加者があり、NPOについて、また自らがNPOを立ち上げるための方法、さらにはその計画を実現するための研修としてNPOでのインターンシップ等を体験した。毎年のことではあるが、このプログラムの参加者は、インターンシップや事業の実施にかかる経費をすべて自分で負担するというようになっており、学生の参加者は知恵とお金を使うことになる。しかし、自分がやりたいことを実行する場合は、最初から他力の資金を当てにできることは少ない。そういう意味で、市民活動の原点を体験してもらう企画としては、大変よい事業であった。毎回、失敗しながらもミニ企画の活動報告をする参加者には、たくましさを感じられた。残念ながら終了となってしまったが、このプログラムに参加した若者が地域や社会（企業など）の新たな担い手として、活躍することを期待したい。

スケジュール：

- 6月19日 ステップ1 組織を学ぶ
- 6月26日 ステップ2 マーケティング・調査術を学ぶ、インターンシップ期間
- 9月11日 ステップ3 企画・プレゼン術を学ぶ
- 9月18日 ステップ4(1) 広報術 企画のブラッシュアップ相談
- 10月2日 ステップ4(2) 資金調達術
- 10月3日 中間報告会
- ミニ企画実施期間
- 12月4日 企画実施報告会

(3) まち美化に関する市民活動推進のための支援事業

委託者：仙台市（環境局廃棄物管理課）

目的：ごみの散乱のない快適なまちづくりを市民、事業者、行政の協働により効果的に進めるため、まち美化に関する市民活動を活性化し、活動相互の連携を図るための支援事業を実施する。

成果：

今年は、昨年度より実施している出前講座を4ヶ所で実施することができた依頼先も市民センター、学校、施設などで、目的に合わせてこの講座を活用してもらうことができた。また、「アレマ新聞」は、市民の広報ボランティアのメンバーが「アレマ新聞部」として、編集会議を行い積極的に取材に出かけるなど、紙面の見直しも含めて充実した内容を実現することができた。ほかにも、アレマ隊養成講座を市民メディアネットワークの取材により、CATVで市民に広くアピールする機会があった。今年で、4回目となったまち美化タウン・ミーティングでは、「まち美化」をキーワードに、クリーン仙台推進員、アレマ隊、まち美化サポーター、仙台まち美化ネットワークの4つの活動者が発表を行い、それぞれの活動の違いや共通点について紹介し紹介することができた。なお、6年にわたり取り組んだ結果、のべ27,747人がアレマ隊員として活動し、キャンペーン関連の催し参加者を加えると192,383人を数え、約20万人がこのキャンペーンを通じてまち美化活動に参加していることになった。

内容：1) 全市一斉「ポイ捨てごみ」調査・清掃キャンペーンの実施

* 企画・コーディネート

2) アレマ隊活動オープン会場の実施

* 企画・コーディネート

3) アレマ会議の実施

* 企画・準備・コーディネート

4) アレマ隊員養成講座の実施

* 企画・準備・コーディネート

5) まち美化タウン・ミーティングの運営

* 企画・コーディネート

6) 仙台まち美化ネットワーク通信（アレマ新聞）の発行：年2回

* 企画・取材・原稿作成

(4) クリーン仙台推進員平成16年度グループ学習会運営業務

委託者：仙台市（環境局リサイクル推進課）

企画運営：当センター

目的：地域で起こっているごみ問題について整理し、問題解決に向けた市民PRの手法などを学習することにより、クリーン仙台推進員のスキルアップを図るとともに、推進員間のネットワーク形成を目指す。

事業内容：グループ学習会は、以下の日程と参加で全5回を開催した。

第1回グループ学習会

日時：8月12日（木）13：30～15：30

場所：仙台市役所二日町仮庁舎 7階会議室 参加：45人

内容：「悩みと疑問を出し合おうの巻」

第2回グループ学習会

日時：9月7日（火）13：30～15：30

場所：仙台市役所二日町仮庁舎 7階会議室 参加：42人

内容：「3分間分別研修講師になろうの巻」

第3回グループ学習会

日時：10月5日（火）13：30～15：30

場所：仙台市役所二日町仮庁舎 7階会議室 参加：35人

内容：「ポスターづくり大会の巻」

第4回グループ学習会

日時：11月16日（火）13：30～15：30

場所：仙台市役所二日町仮庁舎 7階会議室 参加：42人

内容：「仲間を増やそう大作戦の巻」

第5回グループ学習会

日時：12月2日（火）13：30～15：30

場所：仙台市役所二日町仮庁舎 7階会議室 参加：39人

内容：「ご近所の底力の巻」

成果と今後の課題・提案

前年度の延べ参加人数 362 人に対して、本年度のグループ学習会の延べ参加人数は 203 人であった。募集定員、各回 70 人は下回った。原因としては推進員 2 年目（2 度目）の募集であったことも影響していると思われるが、告知方法と定員の見直しも必要かもしれない。ただし、昨年度は、各回とも会場のキャパシティに対して、参加者が多くすし詰め状態であった。参加者からも熱気は評価するものの、すし詰めは解消すべしとの意見が多く、今年度の参加者数は、実施者としては、各回とも適正規模であったと思われる。

以下に、本年度の特徴・成果を列記する。

1) 自主活動グループが誕生!

今年度のもっとも大きな成果は、グループ学習会の中から、自主活動が誕生したことである。第2回学習会のとき、参加者からの質問の中で、「ペットボトルのラベルが剥がしにくいものがあるが、行政から業者へ働きかけて欲しい。」という発言があり、「仙台市としてはとくにしていないが、国を通じて業界に要望する機会はある。」との回答と、加藤からは、「行政が制度として直接取り組むことが難しいものであり、市民が直接、調査をしてメーカーに働きかけることができる。」と調査という方法を紹介したところ、やりたいという声があがった。そこで第3回で調査の呼びかけをしたところ、多数の推進員が調査に参加して、その後のグループ活動のきっかけとなった。

単なる学習型の市民グループは、行政主導の講座でも多数輩出しているが、このような問題解決型のグループが、しかもコミュニティ活動の一部として発生するのはめずらしいことであり、今後のモデルとしての展開が可能なように支援的関わりが求められる。

2) 2月の全体研修会で、意欲的な推進員の取組みを大々的に紹介することができた。

例年、グループ学習会の最終回には、参加者による取組みとノウハウの発表大会を行って好評であったが、本年度は、全体研修会での発表を行うことができた。2005年2月22日(火)午後1時から3時30分に、ネ！ットU(仙台市情報産業プラザ)多目的ホールにて開催されたクリーン仙台推進員全体研修会(テーマ「ご近所での底力」)において、ペットボトルラベル調査の有志を始め、各区から活動している推進員が、展示発表や体験発表を行った。その中心となったのは、グループ学習会の参加者であり、そこで提供された取組みのノウハウは、多様で実践的であり、悩んでいる推進員や町内会役員にとって役に立つものであった。

3) 成果の出ている推進員の姿が見えてきた。

2)とも関係するが、学習会参加の推進員の方々は、実際に取組みの上で次第に成果が見えてきていることを報告している。一部の人ではなく、かなり多数の推進員たちが成果を上げていることは、本グループ学習会および施設見学会や全体研修会、環境事業所の職員の関与促進などの、総合的な支援の取組みが効果を上げてきていると考えられる。

(5) 平成16年度 杜々かんきょうレスキュー隊事業

環境学習プログラムに係わる活動マニュアルの作成業務

主 催：仙台市（環境局環境都市推進課）

企画協力・実施：当センター

成 果：

当企画を進める段階から、当センターから内容の提案や編集上の提案（プログラム作成の考え方、企画・運営の基礎）などを行うことで、マニュアルとしてより活用しやすいものを編集することができた。



内 容：環境プログラム作成業務を受託した市民団体が作成した環境学習プログラムの調整をはかり、活動マニュアルにまとまる。

成 果 物：活動マニュアル原稿を電子媒体で納品。

(6) 「仙台市すこやか子育てプラン第3期行動計画」策定にかかる市民活動団体ヒアリング調査

委 託 者：仙台市（健康福祉局こども企画課）

目 的：こどもをテーマに多様な活動を展開している市民活動団体・サークルに集まっていたいただき、その活動内容別に活動の実態、団体として抱える課題、活動自体から見える課題や方向性を話していただき、経過を整理の上、報告書にまとめ、行動計画策定にあたっての検討資料とする。

成 果：

各団体個別の聞き取り調査ではなく、懇談会として複数団体による意見交換は、それぞれの団体の活動状況を知る機会となり、こどもを取り巻く環境について、現状と課題を共有する機会として有効だった。提言活動を行うにあたって、こうした場づくりの重要性を再認識できた。

懇談会から見えてきた課題の把握することでき、以下の5点が浮き彫りになった。

- (1) 当事者としての親とこどもの居場所と交流の機会が少ない
- (2) 地域でこどもを育てるしくみづくりが不足している
- (3) 児童館・市民センターの有効な地域活用が不足している
- (4) 団体（NPO側）の人材・資金の問題点がある
- (5) 行政の担当課の連携不足している

また、下記の6点を提案としてまとめた。

- (1) 子育てに関するNPOの社会的役割
- (2) 企業との連携による、子育て環境の改革の可能性
- (3) 子育て支援をテーマとする中間支援組織の必要性
- (4) 世代を超えた、居場所づくり
- (5) 子育て環境の変化に関する市民の意識改革をまちづくり

(6) 行政施策の見直しとシステム開発

- 内 容：懇談会 第1回 : 11月15日
第2・3・4回 : 11月22日
第5回 : 12月6日

会場は、いずれも仙台市市民活動サポートセンター 研修室3

団体の選定について:こどもをテーマとする団体の中から次の点をふまえて、参加団体を選定した。(全15団体)

- (1) 就学前児童を対象に活動を行っている団体(6団体)
- (2) 小学生から中学生を主な対象として、虐待問題やこどものこころのケア、こどもの遊び場づくりや体験学習を行っている団体(5団体)
- (3) 活動の主体が青少年、また青少年が支援者となりこどもを支援している団体(4団体)

(7) 市民トラストの森「市民参加の森づくり」事業

委 託 者：仙台市(建設局緑化推進課)

企画・運営：当センター

目 的：緑の保全、普及、創出を全て兼ね備えた事業として、市民協働で行っていく。市民が「残したいと思う森」「市民ニーズにあわせた森」にしていくための手法を模索するため行うものである。
今後、市内各所で市民による森づくりをすすめ広げるための、モデル事業とする。

成 果：

短期間ではあったが、市民による森づくりの気運を高めるための第一歩を歩み出した。参加者が共に意見やアイデアを出し合い、コンセプト(案)と今後の森づくりの計画を作成したことにより、森づくりの担い手としての自覚が芽生え始めてきた手ごたえを感じられた。

内 容：第1回 説明会 2005年2月12日(土)13:30~16:00

会場：仙台市役所北庁舎 5階会議室 参加者：16名

- ・「市民トラストの森」に関する説明
建設局百年の杜推進部 緑化推進課課長 身崎 尚氏
- ・講演「なぜ、市民参加の森づくりなのか？」
(特活)NPO Birth 事務局長 佐藤留美氏
- ・これからの進め方について

第2回 現地見学会&プランづくり 2月26日(土)10:30~16:00

会場：放山保存緑地、葛岡墓園管理事務所会議室 参加者：9名

- ・オリエンテーション

- ・現地見学
- ・事業概要の確認
- ・コンセプトワーク
- ・次年度の事業計画の検討

第3回 プランづくり 3月13日(日) 10:00~12:00

会場：葛岡墓園管理事務所会議室 参加者：9名

- ・次年度の事業計画の検討

(8) 市民による百年の杜づくり講座企画運営業務

委託者：仙台市(建設局緑化推進課)

企画・運営：当センター

目的：具体的事例を中心とした情報提供の場及び交流の場を設けて、市民自らが翠を通したまちづくりに主体的に関わることができるよう支援し、市民協働による百年の杜づくりを促進する。

成果：

- ・アドプト・プログラムの歴史や日本での普及状況や導入事例をわかりやすく学ぶことができ、また全国の緑化活動の事例を知ることにより、今後の活動展開の幅を広げることができた。
- ・市民(NPO)と行政の互いの役割やプログラムの長所を知ることにより、協働で行う事業の効果を知ることができた。
- ・4回連続の講座には市民(NPO)10~14名、行政職員が8~11名参加したなかで、グループワークにおいて市民と行政職員が同じテーブルで同じ課題について検討しあい、具体活動の提案までたどり着いた。
- ・参加者が所属する団体間の情報交換にも弾みがついた。

内容：第1回講座 2005年2月22日(火) 18:30~21:00

・「百年の杜づくり」について

建設局百年の杜推進部 緑化推進課課長 身崎 尚氏

・講演「アダプト・プログラム」について

講師：(社)食品容器美化協会 業務部部长 谷津直生氏

・ワンポイント情報提供コーナー 仙台市

第2回講座 2005年3月1日(火) 18:30~21:00

・アダプトプログラムの事例発表

みやぎスマイルロード・プログラムより

花咲里会 代表 鶉橋一子氏

仙台まち美化サポート・プログラムより

仙台市環境局廃棄物事業部 廃棄物管理課指導係主査 伊藤 洋氏

(特活) 職人集団住改善 理事長 山崎 卓男氏

・具体的活動の検討(1)

・仙台市からのお知らせ

第 3 回講座 2005 年 3 月 8 日(火) 18:30~21:00

・ワンポイント情報提供コーナー

(特活) 社の都仙台ナショナルトラスト 副理事長 大内 禎氏

百杜パークネット 代表 瀬戸武男氏、佐藤英雄氏

・具体的活動の検討(2)

第 4 回講座 2005 年 3 月 15 日(火) 18:30~21:00

・具体的活動の発表

公共施設 / 公園・緑道 / 公園・花壇 / 公園・里山

・交流会

(9) 平成 16 年度 起業家育成・支援事業(アクティブシニア・ビジネス部門)

委託者: 宮城県(産業経済部産業人材育成課)

実施期間: 2004 年 8 月 9 日~2005 年 3 月 18 日

目的: 中高年者によるコミュニティビジネス立ち上げの誘導・促進を図ることにより、中高年者の持つ経験・技術の社会への還元及び社会参加を促進する。また、あわせて中高年者が地域資源を活用し起業することにより、地域の活性化につなげること。

参加者数: 11(団体・個人)

成果:

本事業は、3 年目であり本年度が最後となる事業であった。講習会では 11 名の参加を数えたが、応募数は最終的に 7 人となり昨年より減少した。今回も昨年同様に仙台市以外の市町村からの応募が増えた。また、団体での応募ではなく全て個人での応募であった。なかでも、女性の応募が年々増えてきており、女性がこのような形で起業する傾向が増えつつあることを示しているようだ。このことを踏まえて、起業に関する必要なノウハウなどについて、講習会で伝えた内容を提出された企画内容に合わせて相談者に改めて確認することが出来、起業支援の一端を担うことができた。

内容:

1) 事業実施に係る各種アドバイザー業務

2) 募集告知

・送付先: 約 300 団体・個人(当センター会員、県内 N P O 関係団体、県内市民活動支援センターなど)への発送、仙台市市民活動サポートセンターチラシ持ちこみ、当センター事務局内や当センター関連事業においても配布

3) 講習会開催(2004 年 10 月 13 日)

内容...全応募者のうち希望者を対象として、事業計画書の書き方や事業計画の立て方等についての講習を行った。

- ・講師：加藤哲夫
 - ・参加者数：11 団体・個人が参加
 - ・会場：宮城県行政庁舎 2 階 第 2 入札室にて (13 : 30 ~ 15 : 00)
- この講習会では、「想いと資源のたな卸し + マーケティング」の視点から、シニアの起業を考えるヒントを盛り込むと共に、「事業計画書」作成の要点と、収支計画を考えるポイントについて詳しい説明を行った。特に起業コンセプトの確認は、シニア起業に向けた重要なポイントであり、重視した。また申請書の書き方も、項目別に書くべきポイントを理解し、整理して書き込むことが求められていることを解説した。第一次書類審査に向けて、提出書類のバージョンアップに貢献したと思われる。

4) 相談会の開催 (2005 年 1 月 7 日)

内容...平成 16 年 12 月 20 日に行われた「認定検討会幹事会 (1 次審査)」にて合格した 4 人の合格者を対象に相談会を開催。事業実施に係る質疑応答や事業計画改善等に関する助言を行った。

- ・相談対応者：加藤哲夫・紅邑晶子
- ・参加者数：4 人 (オブザーバーの参加者も含め計 6 人) が参加
- ・会場：宮城県庁 13 階・会議室にて (10 : 00 ~ 14 : 30)

この相談会では、第 1 次審査で指摘された点と相談者の確認したい事業計画のポイントなどについて、アドバイスを行った。主には、実現性、具体的な資金計画、マネジメント、マーケティングの必要性などについての指摘、コミュニティ・ビジネス的な視点、プレゼンテーションにおける企画の強み弱みの表現方法など、アドバイスをを行った。

5) 平成 15 年度応募者に対する起業状況調査の実施

内容...平成 15 年度の応募者を対象に、応募事業の実施状況等についてアンケート調査を行った。

(発送先 : 10 団体・個人、回答数 : 7 団体・個人)

6) その他委託業務全般に関するコンサルティング業務

(10) 宮城県内の NPO への助成金提供の実態調査 (自主事業)

実施期間 2004 年 10 月 ~ 2005 年 6 月

当センターで運用している「地域貢献サポートファンドみんな(みんなファンド)」の効果的かつ適切な運用を図るためには、宮城県内の NPO がこういった質・量の助成

金を受け取っているかを把握し、その上でプログラム開発を行っていく必要があるが、そのような基礎的な統計は整備されていないのが現状である。

そこで、センターでは、情報が入手可能な最新の状況を把握するため、2003年度に宮城県内のNPOが受領した助成金・補助金の全体像を把握するための調査を実施した。主担当としては、市民社会創造ファンドのインターンである前田和幸さんがあたった。

調査は、全国および県内の助成財団、共同募金会、社会福祉協議会、自治体および外郭団体（宮城県、仙台市）の計210財団・団体、340の助成プログラムを対象とし、ホームページでの情報収集、ヒアリング、情報公開請求などで情報収集を行った。

その結果、宮城県内のNPOには、2003年度の1年間で約4億4千万円もの助成金・補助金が提供されていることがわかった。一方で、助成分野や規模の偏りも見られ、今後のみんなみんファンド運営・プログラム開発に大きな知見を与えるものとなった。

調査の結果は、報告書の形で広く公開する予定である。

(11) 自治体職員向け研修・講師派遣

自治体職員向け研修：31件（56回）

| | 研修名 | 主催 | 実施日 |
|----|--|-----------------|----------------------------|
| 1 | 協働推進ワーキンググループ | 仙台市市民局 | 2004/7/6・7/26・9/28 |
| 2 | 佐賀市職員研修 | 佐賀市 | 2004/7/12・13・14 |
| 3 | 市民センター職員研修「コーディネーター&ファシリテーター養成研修」 | 仙台市中央市民センター | 2004/7/22・8/10・9/10 |
| 4 | 平成16年度ステップ2研修「住民協働ワークショップ」 | (財)ふくしま自治研修センター | 2004/7/27・8/4・11/9・12/7・14 |
| 5 | 市民センター館長及び職員研修 | (財)仙台ひと・まち交流財団 | 2004/7/27・29・8/3・5 |
| 6 | 安塚町町内会地域振興計画の手引き説明会 | 安塚町 | 2004/8/30・31 |
| 7 | 平成16年度「住民協働ワークショップ」 | (財)ふくしま自治研修センター | 2004/9/8・10/6 |
| 8 | 環境省職員・環境ボランティア・NPO研修 | (財)水と緑の惑星保全機構 | 2004/10/18 |
| 9 | いわき市職員研修「市民と市職員との交流研修」 | いわき市 | 2004/10/21・22 |
| 10 | 仙台市図書館ボランティアスキルアップ講座 | 仙台市 | 2004/10/22 |
| 11 | 東北六県行政課題研修「NPOその本質と可能性について」 | (財)東北自治研修所 | 2004/10/25・26・27 |
| 12 | 職員研修「市民協働・NPO基礎講座」 | 仙台市職員研修所 | 2004/11/2 |
| 13 | 政令都市部会第2回業務交流会～協働とネットワークを生かした地域づくりに向けて～「連携・協働を生み育てる」 | 宮城県保健師連絡協議会 | 2004/11/10 |

| | 研 修 名 | 主 催 | 実 施 日 |
|----|---|------------------|------------------|
| 14 | 行政とNPOとの協働にかかわる地域フォーラム 「NPOってなあーに？なぜいま“協働”なの？」 「参加と協働の時代をひらく」 | 秋田県 | 2004/11/12・13 |
| 15 | 置賜地域づくりフォーラム | 山形県置賜総合支庁 | 2004/11/13 |
| 16 | まちづくり研修会「自立したまちづくりのために …住民・行政の役割、NPOの可能性」 | 宮城県気仙沼地方振興事務所 | 2004/11/17 |
| 17 | 石巻市役所職員対象セミナー 「NPOと行政の協働について」 | (特活)いしのまきNPOセンター | 2004/11/18 |
| 18 | 亀山市職員研修「なぜいま協働が必要なのか」 | 亀山市 | 2004/11/29 |
| 19 | 応募研修「NPOとのパートナーシップ」 | 秋田県自治研修所 | 2004/12/9・10 |
| 20 | みやぎの生き生き地域づくり研修会 「地域ビジョンづくりの実際」 | 宮城県 | 2004/12/17 |
| 21 | 住民協働ワークショップ | (財)ふくしま自治研修センター | 2005/2/1・2・3 |
| 22 | 新・市総合計画基本計画検討委員会に係る講演会 「市民がつくる新しい公共」 | いわき市 | 2005/2/7 |
| 23 | NPOセミナー「NPOその本質と可能性」 | 静岡県 | 2005/2/17 |
| 24 | ちかごろのNPO事情と行政との新しい関係について | 利府町 | 2005/2/25 |
| 25 | アフター5セミナー企画会議 | 多賀城市役所職員有志 | 2005/3/23 |
| 26 | 平成17年度監督者研修 「NPO(市民との協働について)」 | 宮城県市町村自治振興センター | 2005/5/18・25・6/1 |
| 27 | セミナーおよびワークショップ 「地域における市民活動支援システムとは？」 | 水沢地方振興局 | 2005/5/19・6/9 |
| 28 | 平成17年度係長研修 「市民から見た行政・パートナーが期待する行政」 | 仙台市職員研修所 | 2005/5/23 |
| 29 | 平成17年度社会教育施設職員研修 「新任職員研修会」 | 仙台市教育委員会 | 2005/5/25 |
| 30 | 協働成果の発表会 | 高知県 | 2005/6/15 |
| 31 | 協働の推進に関する研修 | 徳島市 | 2005/6/27・28 |

6. 特別事業

3つの特別事業においては、1年1年経験と実績を積み上げ、関わる方々との関係を築きながら成果を生み出してきている。それぞれ事業の成長の様子が見て取れる。

(1) サポート資源提供システムの運用 45～62 ページ

45 ページ～61 ページについては、以下のファイルを参照のこと。

http://www.minmin.org/SSS/SSS_houkoku2004.pdf

(2) 仙台市市民活動サポートセンターの管理・運営 63～68 ページ

(3) せんだいCARES2004 ～企業人によるNPO・市民参加キャンペーン～ の実施
68～70 ページ

サポート資源提供システムの事業年度は、4月1日より翌年3月31日となっている。2005年3月末まで（サポート資源提供システム2004年度）の事業報告については、2005年6月22日開催のサポート資源提供システム運営委員会にて、前ページまでに示した通り報告が行われた。その後、2005年4月～6月の間では、以下の事業が行われた。

1) サポート資源提供システム運営委員会の開催

2005年度第1回運営委員会

2005年6月22日 14:10～16:00 せんだい・みやぎNPOセンター

- ・2004年度事業報告・収支報告について
- ・2005年度事業計画・収支予算について

2) 物品提供

2005年6月、せんだい・みやぎNPOセンターから、みやぎいのちと人権リソースセンターに、パソコンラック2台が提供された。

3) パソコン等提供

2005年6月、(社)宮城県情報サービス産業協会様から、特定非営利活動法人ライジングジェネレーションサポートネットに、プリンター1台が提供された。

4-1) ろうきん地域貢献ファンド

今年度より、Aコース「ボランティア体験応援コース」、Bコース「事業ステップアップ応援コース」の2コース制で助成を行うこととなった。2005年6月1日～7月1日の1ヶ月間、公募が行われた。2005年8月までに審査が行われ、助成金提供が行われる予定である。

4-2) みやぎNPO夢ファンド

平成17年度助成事業の応募事業について、2005年5月までに審査が行われた。その結果、各プログラムについて、以下の通り助成が行われることとなった。

(1) 人材育成支援プログラム 9団体 129万円

詳細 http://www.minmin.org/fund/miyagi/jinzai_compe2005.htm

(2) ステップアップ支援プログラム 3団体 300万円

(うち、2団体、200万円は、前年度助成事業の継続)

詳細 http://www.minmin.org/fund/miyagi/stepup_compe2005.htm

(3) スタートアップ支援プログラム 10団体 190万円

詳細 http://www.minmin.org/fund/miyagi/start_compe2005.htm

平成17年度の助成総額は、22団体へ計619万円となった。

(2) 仙台市市民活動サポートセンターの管理・運営

指定管理者制度の1年目は、様々な契約上の手続きを無事乗り越え、人材の確保についても成果のあった1年と言える。なかでも、「骨プロ」による8施設へのチラシ配布システムの提案と実施は、当センターの提案が評価され、的確に仙台市の公共施設の質的向上に役に立っていることを示すものである。さらには、仙台市の職員用の「協働の手引き書」の策定に参加し、6月からは、「協働相談所」を仙台市との協働事業で開催している。書籍販売も検討を終え、8月から実施の運びとなった。

また、施設の老朽化に起因する問題が多発していたが、市の市民公益活動促進委員会でも取り上げられ、移転の方向で検討が進んでおり、今後その準備に向けた取組みが必要になる。そこで指定管理者としての経験を活かし、ますます公共施設管理・運営の革新モデルを目指して努力していきたい。

以下、平成16年度市民活動サポートセンター利用状況(2004.4~2005.3)をまとめた。

<場の提供業務>

1) 総利用者総数及び利用件数 >> 総利用者数は横ばい、利用件数は研修室タイプの需要増

サポートセンターの利用者総数は、42,441人(【表1】前年比96%、1,742人)、利用総件数は、18,689件(【表1】前年比102.7%、+493件)となった。開館からの累計では7月に20万人を超えた(3月末現在:227,618名)。

総利用件数、貸室件数は前年を上回っている。情報サービスの利用件数はフリースペース利用件数、印刷機利用件数、相談件数を除いて増えていることがわかる。また、貸室の利用状況は、部屋別使用率の年間平均の推移をみると、研修室タイプの需要が高い。(【表2】を参照)

サポートセンターの役割を明確にしなが、仙台市中心部での市民活動の総合窓口として、利用者が求めるサービスが提供できる施設のご案内なども引き続きしていきたい。

| 項 目 | 15年度 | 前年比 | 16年度 | 前年比 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|
| a 貸室件数 | 2,870 | 99.1% | 2,914 | 101.5% |
| b フリースペース利用件数 | 2,179 | 115.2% | 1,905 | 87.4% |
| c 印刷機利用件数 | 2,415 | 102.9% | 2,198 | 91.0% |
| d パソコン利用件数 | 2,087 | 222.5% | 2,457 | 117.7% |
| e レターケース取り扱い数 | 4,114 | 100.3% | 4,694 | 114.1% |
| f 情報揭示受付件数 | 3,146 | 105.3% | 3,335 | 106.0% |
| g 相談件数 | 1,309 | 97.3% | 1,118 | 85.4% |
| A 総利用件数 | 18,196 | 109.0% | 18,689 | 102.7% |
| B 利用者総数(人) | 44,183 | 99.6% | 42,441 | 96.0% |

| 部屋名 | 15年度 | 16年度 | 前年比 |
|---------|------|------|--------|
| セミナーホール | 81% | 77% | 95% |
| 研修室1 | 90% | 93% | 103.3% |
| 研修室2 | 90% | 91% | 101.1% |
| 研修室3 | 79% | 80% | 101.2% |
| 研修室4 | 90% | 89% | 98.8% |
| 会議室 | 68% | 70% | 102.9% |
| 親子交流サロン | 79% | 78% | 98.7% |

2) 利用団体状況 >> *利用表の提出率、伸びず。内容改訂で強化を!*

来館利用団体数は、利用票の集計からは、のべ5,197団体である。また、開館以来の団体情報の蓄積は、4,417団体(前年比100.6%、+29団体)となった。今回蓄積数の微増の理由は、分野ごとに分かれていた団体情報ファイルの統合や外郭団体の情報を別ファイルにした結果である。分野別内訳では、例年通り各分野の団体が幅広く利用している。提出された利用票の集計による人数(6,392人/年)とスタッフによる定時カウンターの集計人数(17,314人/年)の差が大きく、日常的な声かけや表示など、工夫に努めているが、提出する利用者が少ない現状である。

そこで、次年度より、利用票の改訂や提出を促す声かけを強化し、利用者自らが利用実績をアピールする施設となるよう働きかけていきたい。

3) 施設の管理状況 >> *建物の老朽化に伴うトラブル変わらず・・・*

雨漏り、壁の亀裂や下水臭など、建物の老朽化に伴うトラブルも相変わらず目立ち、施設トラブル報告の件数は67件(前年比111.6%、+7件、うち雨漏り41件、蛍光灯のコンデンサーの故障4件等)となった。雨漏りに関しては、一部蛍光灯の周辺から発生したケースもあり、点検をしていただいたが根本原因の究明にはいたらず、漏電等の不安が残る。雨漏りなどは、日常化していることにより、スタッフやハードユーザーは見慣れた光景になっているが、初来館者や視察・見学者が驚かれることもままあった。スタッフが現場対応や業者との調整に要する時間も多くなっているのが現状であり、利用者が安心して利用できる環境整備を早期に望むところである。

4) 防災・防犯に関する取り組み >> *カラフェスで再考、防災への備え*

定期的な防災訓練の際に、機器類の説明を改めて業者の方から伺う機会を設けた。防災については、「市民活動カラフルフェスタ2005」にて、阪神・淡路大震災において、現地で活動した方を講師としてむかえ、講演とワークショップを実施し好評を得た。また、同時に「わたしたちの防災対策」展」を交流サロンにて行い、来場者には関連資料を持ち帰っていただいた。資料や展示に関しては、仙台市消防局、宮城県社会福祉協議会のご協力をいただいた。催し終了後も、情報サロンに引き続きコーナーを設置し継続して情報提供している。

防犯に関しては、これまで大きな出来事はなかったが、徐々に認知度も上がってきている施設であるので、強化していかなければならない。特に夜は自己防衛をしていくしかない状態であるので、いざという時のために日頃から警備会社や警察への連絡方法の確認をおこない、防犯訓練なども定期的実施していきたい。

< 情報関連業務 >

5) 情報掲示利用状況 >> より利用しやすい空間づくりと新設コーナーでタイムリーな情報提供

チラシ・ポスター・ニュースレターなどの情報掲示利用は、3,335 件（前年比 106.0%、+189 件）となった。交流サロンのチラシコーナーをポスターコーナーの近くに配置換えをし、情報のスペースと、作業のスペースを分けることで、利用者にとっても管理者にとっても、より利用しやすい空間となった。

また、1 階ロビー掲示板にタイムリーな情報（震災ボランティア、新着図書、助成金など）を表示し、トピック情報コーナーとして新設した。地震後の情報掲載時には、河北新報への掲載もあって、タイムリーな情報提供につながった。立ち止まってじっくり見ている利用者も多く見られるようになった。館内の他の空きスペースの有効活用を検討し、新しい試みをしていきたいと思う。

6) 相談対応 >> 相談データベースの構築によって、利用者のニーズ把握と分析に効果大!

(1) 今年度の相談傾向・特徴・変化

相談対応業務における新しい取り組みとして、相談データベースの構築があげられる。今年度下半期から実際に導入し、定着してきた。それによって、次年度からはより利用者のニーズの把握、分析がしやすくなり、求められるサービスの開発と整備が可能になると考える。例えば、来館件数における初来館件数の割合は、全体の 24.5%であったことがわかる（今年度新しく相談項目に加えたものの一つである）。初来館者がどのようなルートでサポートセンターにたどり着いたかがわかるデータも興味深い。

その他、対応時間数やその平均値など、効果的な相談対応を行う上で必要になる客観的なデータの収集も行った。

今年度の相談対応件数が、平成 14・15 年度と比較して減少しているのは、データベース構築とその定着に向けた相談対応票の内容改訂や軽微な相談内容の起票を省いたことなどが理由としてあげられる。その他、相談者属性や相談内容の内訳等で大きな変化はなく、ほぼ一定の割合で推移している。

(2) サポートセンターが今後相談対応で果たす役割について

今後は、「協働相談」や「運営相談」など、専門的な窓口の設置や講座を実施することにより、さらに市民活動の底上げができる環境整備についても力を入れていくことも考えていきたい。

また、スタッフの相談対応力については、毎月全員出勤日を 1 日から 2 日に増やし、実際にロールプレイ等の研修も逐次実施し、利用者満足度の高い対応ができる体制作りをめざしていきたい。

7) パソコン利用状況 >> インターネット閲覧需要、年々高まる

パソコン利用件数は、2,457件(前年比117.7%、+370件)となった。インターネット閲覧パソコンの利用はあいかわらず増加している。インターネット閲覧パソコンの利用の際には、必ず受付をしていただいているので、利用件数は実数で把握することができている。

8) 印刷機利用状況 >> 現象傾向とはいえ、約191万枚利用されています

印刷機利用枚数は1,914,503枚(前年比86.7%、292,775枚) 受付数は、2,198件(前年比91%、217件)とここ数年、減少傾向にある。とはいっても、約191万枚のチラシ等が印刷されていることは紛れもない事実である。

今年度は、12月の利用枚数が、82,591枚(前年比54.1%、70,049枚)と大きく減少しており、大雪により来館できなかった利用者も考えられる。また、プリンターの普及やメーリングリストによる広報なども理由として挙げられる。

最近では、機械の老朽化に起因する紙詰まりなどの不具合なども頻繁に起き、その都度スタッフが対応していた。そこで今年度末にオーバーホールを実施することになり、今後このような対応は減り、利用者にとっても快適な作業ができると思われる。

9) 「ぱれっと」の発行について >> 市民活動団体の動きに合わせて情報提供

年間の発行部数は、36,151部であった。3月号は内容にとまれない、通常配布先としている全国のサポートセンターや行政窓口の他に、仙台市内各小・中学校へ250部程投げ込みを行った。内容については、仙台で活躍している市民活動団体の成長の過程や活動の成果を発信することを意識し、「さぼせん物語」と題し、団体の成長過程が見える特集なども取り入れ、好評であった。

また、市民活動団体の動きにあわせた情報提供(イベントシーズンを前に、リスクマネジメントの特集)など、活動に役立つ情報も時期に合わせてながら、記事作りを行った。

10) サポートセンターホームページによる情報発信 >> サポセンコラムも加わり、1,934件/月

「ぱれっと」に掲載しているサポセンコラムの発信を開始し、動きのあるホームページを意識し、工夫を試みた。また、電話による問い合わせに対して、ホームページを見ることが出来る環境の利用者の場合、積極的に紹介していった。年間のアクセス数も25,507件(前年比142.1%、+7569件)と大幅に増え、月平均にすると、1,934件(前年比129.0%、+561件)となり、インターネットにより、情報収集をしている利用者が増加していることが伺える。

更に、利用者に見やすいホームページになるような、創意工夫をしていきたい。

< 事業関連業務 >

11) サポートセンターまつり (5 周年事業 / 市民活動カラフルフェスタ 2005)

>> 「5 年」「10 年」を節目に企画

7 月の 5 周年事業では、「市民協働 仙台スタイル のこれまでとこれから」と題し、NPO と行政の協働事例を検証、分析し、成果とこれからの課題を明らかにするフォーラムを実施した。「実際に生の協働の声を聞くことができよかった」など参加者からも好評であり、協働への関心の高さが伺えた。フォーラムの内容については、「仙台市市民活動サポートセンター 5 年の軌跡」に掲載し、事例紹介の素材として活用している。

2 月の「市民活動カラフルフェスタ 2005」では、阪神・淡路大震災から 10 年ということも踏まえ、災害をテーマにしたワークショップと講演、展示コーナーを設けた。また、今年話題性の高いプロスポーツと市民活動の関係についてパネルディスカッションを実施し、タイムリー性を意識しながら、仙台の市民活動のこれまでとこれからの結びつくよう企画・実施した。

12) 人材育成事業 >> 人気講座に成長、「NPO いろは塾」

「マネジメント講座」では、NPO としての責任を自覚し、活動に反映することの重要性を学んでいただく機会を提供することをねらいとした。

4 つのテーマで開催し、毎回定員を大きく上回る申し込みがあり、運営に課題を抱える団体の状況を把握することができた。次年度は、引き続き NPO としてあるべき姿を本講座で伝えていくと同時に、テーマを本年度よりもさらに具体的に設定し、より対象を明確にした講座を企画実施していく必要があると考えている。

その他に、8 月より「NPO いろは塾」を実施。毎月、定員 10 名を上回る人気講座に成長し、総参加者数は 75 名にまで達した。スタッフが塾長となり、館内のガイドや NPO の初歩的な講義を担当した。次年度は、内容をリニューアルし、更に魅力のある塾にしていきたい。

13) 市民活動起業講座事業 >> 思いを確認から、次のステップへ

「市民活動起業家講座」では、自分の技術やノウハウ・地域資源を生かして「地域の課題を解決したい」「何かしてみたい」という思いを持ち、「NPO・市民活動団体」として実践していきたいと考える市民を対象に、起業家としての初歩的な情報とノウハウを提供し、市民起業家を創出していくことをねらいとした。

各編で、参加者がそれぞれの思いを確認し、次のステップへの道筋を作ることができたという感想を多くいただいた。次年度はよりターゲットと広報を明確にし、潜在的なニーズを持つ市民への呼びかけを強化したい。

14) その他 >> *関心をお寄せいただき5周年!*

視察・見学・取材対応は68件、432名(前年差: 8件、+123名)北は函館市、南は那覇市と全国からご来館いただいている。館内をご覧になられた後、4,400を越す団体情報を収集していることや窓口での利用者とのコミュニケーションのとり方などに関心が高い。

開館5周年の記念誌「仙台市市民活動サポートセンターの5年の軌跡」も11月に発行し、サポートセンター運営の紹介素材としても活用している。

先駆的な施設としての誇りを持ちながら、賞賛に甘えることなく、引き続き全国のお手本になる施設となるよう、日々努力していきたい。

(3) せんだいCARES2004 ~企業人によるNPO・市民参加キャンペーン~ の実施

補助金: 宮城県・仙台市

実施期間: 2004年10月30日~12月4日

目 的

1. 企業や企業人のネットワークを活用して、NPOの活動紹介やイベントの広報を単体のNPOではできない一斉告知ツールにより、仙台市内全域を対象としたキャンペーンとして実施する。
2. このキャンペーンにより、これまでNPOのサービス内容(活動)や連絡先などを必要としているが、届けられなかった市民に情報を届け、受益者や支援者、活動者として気軽に参加できる機会を提供する。その結果、企業と市民のNPOへの市民参加を促進し、新たなまちづくりの担い手を生み出す。
3. 昨年は実験的に実施したこのキャンペーンだが、今年から1~2年かけて、企業・NPO・市民・自治体による協働のまちづくりキャンペーンとして、取り組みを成長させ、仙台の新しいイベントとして定着させる。(ex. 定禅寺ストリートジャズフェスティバル)

成 果:

- (1) 企業人を中心とした実行委員会を立ち上げ、企画・運営・実施まで当センターと協働でこの事業を運営し、NPOへの市民参加を促進した。
- (2) 参加NPOが昨年よりも17団体増となり、今後も継続してこの事業を実施してほしいという意見を多数もらい評価された。
- (3) 参加NPOが増え企業の協賛・協力もあり、参加者数が増えた。その結果、このキャンペーンの目標とする企業人がNPOの活動に参加する機会が着実に増えた。
- (4) 今回は参加NPOから参加費として1団体3,000円、企業から



協賛金として1企業10,000円をいただき、さらに特別協賛という形で協賛金を得ることもでき、予定通り自主財源となる資金調達が出来た。

- (5) オープニングや各イベントで、参加NPOと企業の出会いの機会を提供できた。
- (6) メディアテークによる会場提供や仙台市内の公共施設等への広報協力など、仙台市とNPOとの協働を推進した。



* 全国でも、「わかやまケアーズ」など本事業をモデルとした取り組みが増えており、NPOと企業・行政の協力による事業モデルとしても、各地で評価されている。

実数：

- (1) 参加者数：40,553人（2003年：34,005人）
- (2) 参加NPO数：42団体（目標：50 昨年：25）
- (3) 協賛・協力企業数：128（目標：150 昨年：262）
- (4) 共催・後援 行政数：23（目標：30 昨年：22）
- (5) NPO企画・イベント数：48（昨年：37）

概要：

第2回目となったせんだいCARE Sは、NPOの活動が最も活発に行われる秋の約1ヶ月間（11月30日～12月4日）、仙台市内で行われるNPOの催しをパンフレットにより、仙台市民に向け一斉告知した。

従来、NPOの広報は主に団体単独で行われているが、このキャンペーンでは分野の異なるNPOの情報をつのり情報提供した。また、このキャンペーンの最も大きな特徴でもある、キャンペーン広報を仙台市内に拠点をおく企業（地元企業・支店など）に資金的にも協力を受けることができた。さらに、パンフレットなどの配布も積極的にご協力いただくことができた。行政やマスコミにも共催、後援を依頼し、広く多くの市民参加のキャンペーンとなった。広報ツールは、ポスター、ポストカード、パンフレット（イベントスケジュール、内容、団体紹介などを掲載）をはじめ、ホームページ、コミュニティFMなどを活用し、メディアミックス型で行った。また、今回はエル・パークフォーラムと協力して、それぞれの広報媒体を通じて告知協力を行った。

資金面でも、宮城県・仙台市による補助金のほかに、参加NPOからの参加費、協賛企業の協賛金などを集めるなどして、今後の資金調達基盤を築くことができた。さらに、今回のせんだいCARE Sは、企業・行政・NPOが実行委員会を立ち上げ、事務局を共催団体である当センターが勤めるという形で本事業を実施した。実行委員会は、6月より10回にわた



り行なわれた。なお、報告書の作成のために編集委員会を組織し、数回にわたり会議を行い、次回のせんだいCARE Sの広報にも活用できるよう「よみやすく・わかりやすい報告書」を作成した。

* 主な会議と催し

- (1) 実行委員会：2004/6/7、6/28、7/15、8/2、9/8、9/30、10/22、11/30、
2005/1/11、1/18（実行委員長・副委員長会議：8/9）
- (2) NPO向け説明会：8/20
- (3) NPO向け事前説明会/合同発送作業：10/6
- (4) オープニング：10/30
- (5) フィナーレ：12/4
- (6) コミュニティFM収録日：10/20、10/29、10/30



フィナーレで、名コンビを發揮した実行委員長の小関さんと
当センターインターンの林さん（右手前）



次回は、どこに出没するか楽しみに～！